

令和6年度 実践収録

龍 文

～第33号～



創立者 達藤董 記念碑

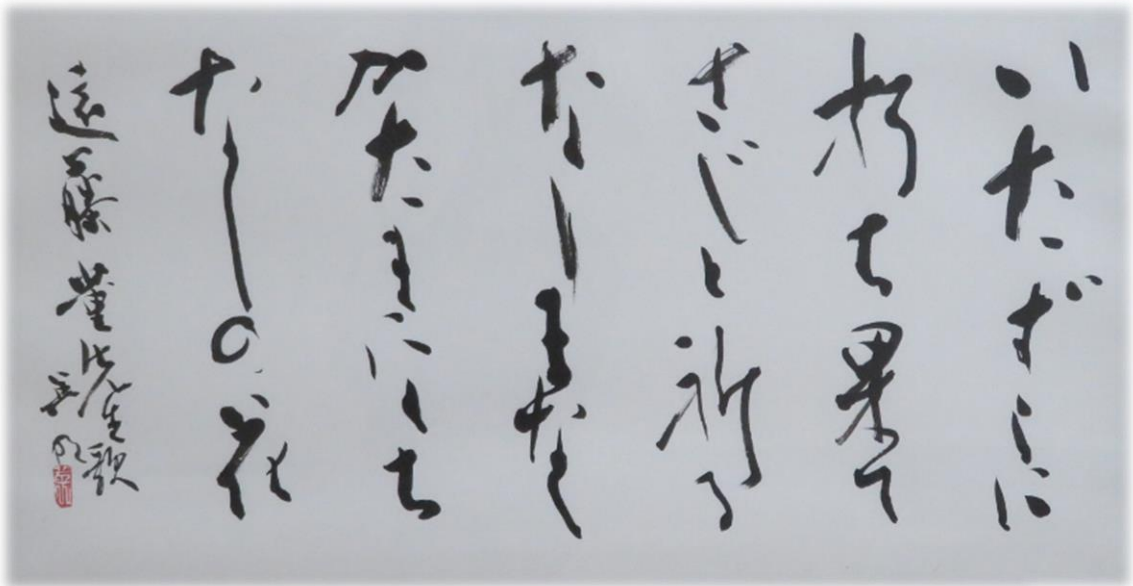


鳥取聾学校



ひまわり分校

鳥取県立鳥取聾学校・ひまわり分校



鳥取大学、住川英明先生の書作品
 ※住川英明先生が『遠藤董先生の歌』を書き
 本校に寄贈していただいた作品です。

「龍文」について

校長室には明治時代を代表する書家、中村悟竹（本名 隆経）による扁額が掲げられている。読みは「りょうぶん」、意味するところは「将来有望なる子ども」である。文字どおり、子どもたちに寄せる限りない期待をこめ表題に引用した。

「龍文33号」発刊にあたって

学校長 秋田 易子

『鳥聾愛・ひまわり愛』

令和6年度、本校は創立114周年目、分校は創立30周年目を迎えました。子どもの人数は本校21名（幼3・小5・中5・高8）、分校11名（幼4・小7）。『鳥聾愛・ひまわり愛』を合い言葉に、子どもたち・先生・職員・保護者・関係の方々が心をつなげて“元気いっぱい”“笑顔いっぱい”“おそれずに何事にも挑戦してみよう”と明るくたくましい学校づくりに向かった1年となりました。学校キャラクター公募により、本校『ろっぴー』分校『ひまりん』が誕生しました。子どもたちの自主性や自治力を育み、その願いや考えを学校づくりの柱にしようとする先生方の熱意を感じ嬉しく思いました。

【戦略事業 鳥聾未来プロジェクト 発信TORIRO】

○TORIROの強みを発信し、TORIROで仲間とつながることがねらいです。

- ・「きこえ」と「言葉」の専門性を発揮して、個に応じた指導に努めました。一人一人のきこえや特性に応じた学びにより、言葉の獲得や理解が確実に学力定着にもつながります。進路選択・進路決定で子どもたちの助けとなる本校教育の肝でもあります。
- ・手話言語を共通のコミュニケーション手段とすることで、思いを伝え合う姿が増えています。このことが仲間意識が育ち、自分の居場所づくりにもつながっています。
- ・ろう教員や卒業生など身近なロールモデルとの出会いを通して、将来になりたい自分を具体的にイメージできます。学校公開「ろう教員の話聞こう」や地域の学校でのろう教員の講話が好評で、健聴の子どもや大人が、きこえない・きこえにくい子どもや大人への理解を深めていることを実感しています。
- ・支援部による難聴学級の仲間をつなぐオンライン交流会が好評でした。今後は対面交流も取り入れて、聾学校・難聴学級・きこえの通級での仲間作りに挑戦していきます。

【戦略事業 鳥聾未来プロジェクト ジョイスポ！】

○スポーツを楽しむ、挑戦する、つながることがねらいです。

- ・公式陸上競技場での「とりろうピック」開催では、陸上選手として活躍する先輩方との出会いや競技交流を企画し、デフリンピック2025への機運を高めることにもつながりました。次年度は本校・分校の合同開催に挑戦し、さらに盛り上げていきます。
- ・中高等部では、中聾体や全聾体大会、中総体や高総体、県障スポや国障スポに積極的に挑戦し、自己ベスト更新や上位入賞者が出るなどのビッグニュースが続きました。

【戦略事業 ひまわり分校創立30周年記念の取組】

○創立30周年を記念した取組を進め、分校の魅力と存在の発信をねらいとしました。

- ・11月の記念式典では、多くの来賓・保護者・同窓生などを迎えて盛大に開催。『ひまりん』の誕生・そろいのTシャツ・記念の和太鼓演奏など、分校の力を一つに集めて発揮した式典となりました。同日開催のひまわり発表会での学部パフォーマンスも大好評でした。『ひまわり11』にたくましが備わってきたのは嬉しいことです。
- ・30周年記念の取組では、子どもたちが主役となるよう動機付けやあたためを大切に取組みを展開。多くの人前で発表することに自信を持つ子どもが増えました。
- ・式典を控えた時期に開催した中聾研サークル活動発表会では、幼児教育部会の公開授業及び研究発表を行い、創立以来積み上げてきた幼稚部教育の成果を広く中国地区に発信しました。信州大学の庄司先生による継続指導によるところも大きく、あらためて深く感謝申し上げます。

★本校写真部の活躍がめざましく、全国規模のコンクール等で多くの生徒が上位入賞、近畿高校総合文化祭福井大会（写真）県代表に選出されたことは久しぶりの快挙でした。

『龍文』は、本校・ひまわり分校が取り組んだ今年1年間の教育活動の記録と実践研究の成果を記すものです。今年度の挑戦や子どもの姿が教えてくれることは、今後の聴覚障がい教育・研究に役立つものと信じています。御一読いただき、本校教育に一層のご理解と御支援を賜れば幸甚です。

目 次

1 鳥取県立鳥取聾学校の教育		3 ひまわり分校の取り組み	
学校経営方針	… 1	(1) 年間行事	
		・ひまわり分校年間行事…	28
2 本校の取り組み		(2) 各分掌	
(1) 年間行事		・総務部	… 29
・本校年間行事	… 2～3	・教務部	… 30
		・キャリア教育	… 31
(2) 各分掌		・教育研究自立活動	… 32
・教務部	… 4	・健康安全教育	… 33
・教育研究部	… 5		
・自立活動部	… 6	(3) 各学部	
・生活安全部	… 7	・幼稚部	… 34～35
・総務部	… 8	・小学部	… 36～37
・情報部	… 9	・支援部	… 38～39
・進路指導部	… 10		
		あとがき	
(3) 各学部			
・幼稚部	… 11～12		
・小学部	… 13～14		
・中学部	… 15～16		
・高等部	… 17～18		
・支援部	… 19～20		
・事務部	… 21～22		
(4) 児童会・生徒会			
・児童会・生徒会	… 23		
(5) 部活動			
・陸上部	… 24		
・卓球部	… 25		
・写真部	… 26		
・茶道部	… 27		

1 鳥取県立鳥取聾学校の教育



学校経営方針

【学校教育目標】

聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。

【めざす学校像】

- 自分の居場所がある学校
- 人が集う学校
- 活力がある学校
- ・失敗をおそれず挑戦する学校
- ・きこえに応じた学びができる学校
- ・手話言語によるコミュニケーションを大切にする学校
- ・明日も来たいと思える学校

【めざす子ども像】

- 〔知〕 学び合う子
- 〔徳〕 かなえる子
- 〔体〕 やりぬく子

〈数値目標〉

「学校が楽しい」100%

【めざす教師像】

- 愛情深い
- 明朗・前向き ○協調・寛容
- 待つ姿勢 ○感謝
- ・笑顔・表情豊かに子どもと向き合う
- ・よさをみる・のばす
- ・支え合う・認め合う・高め合う
- ・利他の心「他によかれかし」
- ・子どもと共に育つ“共育”

【今年度の基本方針：めざす子ども像の具現化に向けて】

学び合う子

＜社会で生き抜く力を身につける＞

- 一人一人のきこえに応じた学びの充実
- 子どもたちが主役となり「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業・保育づくり

〈数値目標〉

「授業がよくわかる」90%→95%
「授業がたのしい」85%→90%

かなえる子

＜こうなりたい自分・夢をもつ＞

- 自分のきこえを知る
- ～自立活動の充実 毎日 帯で～
- 自分のよさを知り、のばす、夢に向かう取り組みの推進

〈数値目標〉

「自分にはよいところがある」75%→90%
「自分には夢がある」68%→80%

やりぬく子

＜あきらめない体力・気力＞

- からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活に位置づける

〈数値目標〉

「自分のめあてをきめてからだづくりやスポーツに取り組んでいる」68%→80%

★子どもと向き合う時間を充実するための業務改善★

【基本方針の達成に向けた戦略】

- 戦略1 【発信】鳥聾・ひまわりのPR→大人も子どもも保護者も、みんながPR隊！よさ・魅力を伝えよう！
- 戦略2 【ジョイスポ】スポーツを楽しむ、生活に位置づける。デフリンピック2025に向けて意識高揚！
- 戦略3 入学選考（改訂）の実施→スケジュール感のある計画・準備・実施、キャリア教育の推進
- 戦略4 ろう教員全学部配置の継続→手話言語でコミュニケーション
- 戦略5 新支援部始動・本校と分校の連携、支援部・幼・小学部の連携アップ→センター的機能の発揮！
- 戦略6 子どもたちの自治力育成→集団を育てる、自分たちでやり遂げる経験の積み重ね
- 戦略7 OJT『とりろう塾・ひまわり塾』のスタート→専門性の伝承、教え合い・高め合い、ベテランの出番！
- 戦略8 風通しのよい楽しい職場づくり→業務カイゼンのさらなる推進、自己業務管理、主事・主任のリード

チーム鳥聾・チームひまわりの合い言葉

鳥聾愛・ひまわり愛

2 本校の取り組み

(1) 年 間 行 事

令和6年度鳥取県立鳥取聾学校本校年間行事予定表

	4月		5月		6月		7月		8月		9月
1月	職員会①(学校経営案・服務・分掌発表) 終令交付式 中高教科会① 学年始業(～4月8日)	1水	とりろうピック 給食C休み 校務部会	1土		1月	(支)小学校難聴学級オンライン交流会6校時 (幼)小チャレキング 主事会、校務部会	1木	中国地区オーディオロジー	1日	
2火	着任者研修・校内案内 職員室移動 学部会 ※校長分枝	2木	とりろうピック予備日 給食C休み 全体研究会	2日		2火	(中高)期末テスト 教科書選定委員会	2金	中国地区オーディオロジー	2月	(中)職場体験学習(～6日) (高)現場体験学習(～6日) 校務部会
3水	校務部会① 職員会②(4月行事等) 区ケア推進委員会	3金	憲法記念日	3月	(幼)誕生会 校務部会	3水	(中高)期末テスト 学部会	3土		3火	主事会
4木	幼・小・支共通理解の会 医ケア児共通理解の会 中高教科会② 運営委員会	4土	みどりの日	4火	プール掃除 主事会 SC、SSW、茶道部講師来校	4木	(中高)期末テスト 学校運営協議会	4日		4水	校内全体研究会
5金	職員会③(分掌提案) 校務部会② 着任研 防災防犯研修	5日	こどもの日	5水	プール掃除予備日 歯科検診12:00 学部会	5金	職場見学 (幼)七夕まつり 運営委員会	5月	高文達写真技術研修会 校務部会	5木	学部会
6土	高校校長協会第1回総会・歓送迎会	6月	振替休日	6木	東部地区中学総体～7 情報研修	6土		6火	校長会	6金	運営委員会
7日		7火	主事会 茶道部講師来校	7金	運営委員会	7日	PTA活動部主催 奉仕作業と親子会	7水	学部会 職員研修 聴能研修 午後～	7土	
8月	入学式前日準備・リハーサル 区ケア研修(幼) 教室環境整備	8水	教育実習～5/28 学部会 写真部春の作品発表会(中部)	8土		8月	(東)中学校難聴学級オンライン交流会 6校時 (小)体験入学 補聴器点検(東神・補聴器)	8木		8日	
9火	着任式・始業式・入学式 主事会	9木	避難訓練(地震) 眼科検診 補聴器点検(中国補聴器) 中ろう研代議員会①～10	9日		9火	主事会 級別交流セミナー ST校内研修会 SC、SSW、茶道部講師来校	9金	主事会 運営委員会 学校祭実行委員会	9月	補聴器点検(東神・補聴器)
10水	(ひまわり分校着任式・始業式) 本校給食開始 学部会②	10金	尿検査 全ろう体評議員会・研究協議会	10月	補聴器点検(東神・補聴器)	10水	創立記念日 (小)校外学習3年生、5年生 (中)修学旅行(中3)、校外学習(中2) (高)求人票の見方研修	10土		10火	主事会 ST研修会
11木	(ひまわり分校入学式)	11土		11火	(小)読み聞かせ (中)道徳・職場見学 主事会 ST研修会 SC、SSW、茶道部講師来校	11木	(中)修学旅行(中3) 補聴器点検(中国補聴器)	11日	山の日	11水	
12金	全国学力・学習状況調査生徒 徒質問調査(オンライン) 運営委員会	12日		12水		12金	(幼)読本の読み聞かせ (中)修学旅行(中3)、校外学習(中2) (高)職場見学 学部研究会	12月	振替休日	12木	補聴器点検(中国補聴器) 初任者研修(特)会場PM 高校校長協会研修会①
13土		13月	補聴器点検(東神・補聴器) 運営委員会	13木		13土		13火	対外業務停止日	13金	(幼)おだんごづくり 高校校長協会研修会①
14日		14火	主事会 全議長理事・評議員合同会議(オンライン)	14金	(小)仲間づくり交流会 漢字能力検定 職員会議	14日		14水	対外業務停止日	14土	
15月	補聴器点検(東神・補聴器)	15水	耳鼻科検診13:30 クリーンクリーン活動	15土		15月	海の日	15木	対外業務停止日	15日	
16火	主事会 ケース会 校長会	16木		16日		16火	手話ハフ予運動部提出メロ 主事会 校長会 SC、SSW、茶道部講師来校	16金	対外業務停止日	16月	敬老の日
17水	発育測定①～④ 子どもを語る会 (小)職員会議	17金	尿検査予備日 (中)ととり学力・学習状況調査 職員会議	17月	学部研究会	17水	(中高)非行防止・スマホケータイ 安全教室 職員会議	17土		17火	避難訓練(火災) SC、SSW来校
18木	全国学力・学習状況調査 県立校長会	18土	鳥取県障がい者スポーツ 大会卓球	18火	主事会 SC、SSW、茶道部講師来校	18木	(高)体験入学 教育支援委員会①	18日		18水	(小)宿泊学習(小5) SSW来校
19金	着任研②	19日	鳥取県障がい者スポーツ大会 陸上・フライングディスク	19水	学校公開 (高)就労ガイダンス 5.6校時 SSW来校	19金	SSW来校	19月		19木	(小)宿泊学習(小5)
20土		20月	学部研究会	20木	学校公開 計画訪問 (支)難聴学級情報交換会	20土		20火		20金	学部研究会
21日		21火	主事会 SC、SSW、茶道部講師来校	21金	学校公開 SSW来校 着任研 全県PT総会	21日		21水	(高)夏季補充学習(3年生) 職員会議 不登校対策研修	21土	手話バフオ交流会(米子)
22月	心電図検査(小1)13:30	22水	運動会総練習	22土	医大との勉強会①	22月	給食C休み	22木	(高)夏季補充学習(3年生) 学部研究会 自立活動勉強会 自立活動全体研修会	22日	秋分の日 手話バフオ本大会(米子)
23火	主事会 SC、SSW来校	23木	内科検診13:15	23日		23火	終業式 給食C休み (高)鳥取市議会意見交換14:00～	23金	(高)夏季補充学習(3年生)	23月	振替休日
24水	職員会議、SSW紹介	24金	SSW来校	24月	(小)合同学活 (中)実力テスト中3 職員手話研修	24水	夏季休業日～8/25 (高)夏季補充学習 (中)登校日	24土		24火	主事会 SC、茶道部講師来校
25木		25土	運動会	25火	主事会 医ケア児緊急対応訓練	25木	(高)夏季補充学習	25日		25水	職員会議
26金	参観日・PTA総会・学部懇談 (幼)かんげい会	26日	高校総体卓球競技の部	26水	(小)体験入学	26金	(高)夏季補充学習 手話バフオ予選審査・発表	26月	始業式	26木	中ろう研サークル研(自立)～27
27土	ひまわり分校参観日	27月	振替休業日	27木	自立活動勉強会 全特長研究大会(オリセン)	27土	中ろう体卓球(岡山)	27火	主事会	27金	(中)東部地区中学校体育大会(卓球)中2 情報勉強会
28日		28火	主事会 運動会予備日	28金	読字力検定 全議長総会研究協議会(オリセン)	28日	中ろう体卓球(岡山)	28水		28土	
29月	昭和の日	29水	運動会予備日	29土		29月		29木		29日	
30火	分校振替休業日 主事会 茶道部講師来校 給食C休み～5/2	30木	(高)中間テスト (支)情報交換会 心肺蘇生法研修	30日		30火	職員健康診断14:00	30金	避難訓練(不審者対応)	30月	校務部会(10月分)
		31金	(中高)中間テスト (幼)動物見学 実用英語技能検定			31水		31土	同窓会		
	15		21		20		16		5		19
学年始業日・・・8日間						夏季休業日(7月24日～8月25日 33日間)					

令和6年度鳥取県立鳥取聾学校本校年間行事予定表

10月			11月			12月			1月			2月			3月					
1	火	主事会 SC、SSW、茶道部講師来校 ST校内研修	1	金	給食C休み (小)学部遠足(佐治方面) 全ろう体卓球(～3日)	1	日		1	水	元日	1	土	医大との勉強会	1	土				
2	水	(支)保健師情報交換会 学部会	2	土		2	月	校務部会	2	木		2	日		2	日				
3	木		3	日	文化の日	3	火	(支)中学校難聴学級オンライン 交流会 主事会	3	金		3	月	校務部会	3	月	運営委員会			
4	金	実用英語技能検定 全ろう体陸上(～6日)	4	月	振替休日	4	水	学部会	4	土		4	火	(支)研修会 主事会 SC、茶道部講師来校	4	火	主事会 卒業式総練習 (幼、高)ワックスかけ			
5	土		5	火	主事会 校務部会 SC、茶道部講師来校	5	木	(小)宮ノ下小との学校間交流	5	日		5	水	小学部、中学部体験入学 運営委員会 (高)図書観望セミナー (中、高)先輩に学ぶ会	5	水	(小)ワックスかけ			
6	日	すこやかセンターまつり(岩美町)	6	水	逢鷲太鼓連演奏 歯科検診	6	金	(幼)芋のお菓子づくり (高)岩美高校との交流 運営委員会	6	月	校務部会 主事会	6	木	(小)校外学習 3年生 中ろう研代議員会②	6	木	(高)高等部入試・(幼)陸検表及び面接 ※幼稚園及び高等部休業日 県立高校入試			
7	月	補聴器点検(東神、補聴器サ) 運営委員会	7	木	学部会	7	土		7	火	始業式 給食C休み 茶道部講師来校	7	金	(中)就職ガイダンス 学部会 中ろう研代議員会②(奥田、澤田)	7	金	県立高校入試 ICT推進委員会			
8	火	主事会	8	金	(幼)親子遠足 漢字能力検定	8	日	とっとり手話まつりinこくふ	8	水	学部会	8	土		8	土				
9	水	学校祭リハーサル	9	土	医大との勉強会	9	月	補聴器点検(東神、補聴器サ)	9	木	補聴器点検(中国補聴器) ひまわり分校始業式	9	日		9	日				
10	木		10	日		10	火	主事会 SC来校	10	金	運営委員会	10	月	体験的学習活動等休業日	10	月	補聴器点検(東神、補聴器サ) (幼)お別れ会 (中)卒業生を送る会 (高)卒業生を送る会			
11	金		11	月	いきいきタイム 補聴器点検(東神、補聴器サ) 運営委員会	11	水	学部研究会 介護等体験 ～12日	11	土		11	火	建国記念の日	11	火	卒業・修了証書授与式			
12	土	学校祭	12	火	読字力検定 主事会、学部会、ST校内研修会 校長会 SC、茶道部講師来校	12	木	(小)校外学習 3年生 介護等体験	12	日		12	水		12	水	職員会議			
13	日		13	水	(小)コレクション宅配便 (中)3校交流	13	金	職員会議	13	月	成人の日	13	木	自立活動勉強会	13	木	補聴器点検(中国補聴器)			
14	月	スポーツの日	14	木	補聴器点検(中国補聴器)	14	土		14	火	主事会 臨時校長会	14	金	(幼)ひまわり分校とのオンライン交流 (小)作文発表会 職員会議	14	金				
15	火	振替休業日 校長会	15	金		15	日		15	水	学部研究会	15	土		15	土				
16	水	全日聾研(都立ろう・オリセ ン)	16	土	中ろう体陸上記録会 近畿高文祭～24日	16	月	学校運営協議会 盲聾日程調整会	16	木	職員手話研修	16	日		16	日				
17	木	全日聾研(都立ろう・オリセ ン)	17	日		17	火	(中)クリスマス交流会 主事会 SC、SSW来校 14:00～	17	金		17	月	補聴器点検(東神、補聴器サ) 学部研究会	17	月	入学候補者発表 入学説明会			
18	金	全聾長研究協議会(オリセ ン)全聾P	18	月	学校公開 補聴器点検(東神、補聴器サ)	18	水	(幼)クリスマス会 (小)クリスマス会 (中)論大会 職員会議	18	土	中国教育オーディオロジー研 究協議会 手話検定 共通テスト	18	火	主事会 SC来校	18	火	(高)入学候補者学力テスト ひまわり分校卒業式 SC来校			
19	土	ねんりんピック19～22 開会式幼小参加 全日聾P	19	火	学校公開 茶道部講師来校14:00～	19	木	(支)クリスマス会	19	日		19	水	(高)年金に係る学習会 ICTを活用した学びの実践事業報告 会	19	水				
20	日		20	水	学校公開 (高)就職ガイダンス(高2)	20	金	終業式 人権教育研修	20	月	補聴器点検(東神、補聴器サ)	20	木		20	木	春分の日			
21	月	(幼、小)ねんりんピック振 替休業日	21	木	中ろう研サークル研(幼)～22	21	土		21	火	主事会 SC、SSW、茶道部講師来 校	21	金	写真部写真展(～24日)	21	金	給食最終日			
22	火	盲聾合同駅伝大会 職員会議 主事会	22	金	(幼、小)焼き芋づくり 職員会議 ひまわり分校サークル研	22	日		22	水	遠藤記念日(初釜・午後) 職員会議	22	土		22	土				
23	水	(高)修学旅行(高2) 県高校写真展(西部)	23	土	勤労感謝の日	23	月	冬季休業日～1/6	23	木	職員会議	23	日	天皇誕生日	23	日				
24	木	(高)修学旅行(高2) 盲聾合同駅伝大会予備日	24	日		24	火		24	金	実用英語技能検定	24	月	振替休日	24	月	修了式 離・退任式			
25	金	(高)修学旅行(高2)	25	月	計画訪問	25	水		25	土	健康教育参観日	25	火	学校運営協議会 SC、SSW来校 年度反省職員会	25	火	学年末休業(～3月31日)			
26	土	全国障害者スポーツ大会(佐 賀)(～28日) ひまわり分校発表会	26	火	(支)第2回小学校難聴学級オン ライン交流	26	木		26	日		26	水	学年末テスト(在) 校務部会(3月分)	26	水				
27	日		27	水	(中高)期末テスト	27	金		27	月	振替休業日	27	木	学年末テスト(在)	27	木				
28	月	弘済会チューリップ栽培セット贈 呈 学部研究会	28	木	(中高)期末テスト 中ろう研サークル研(小)～29	28	土		28	火	全聾理事・評議員合同会議(オンライン) 主事会 SC来校	28	金	学年末テスト(在) (幼)ひなまつり 学部会(3月分)	28	金	転入者説明会			
29	火	(小)書道教室 主事会	29	金	(中高)期末テスト	29	日		29	水	学年末テスト(卒) 特別支援学校校長会 本校会場			29	土					
30	水	(高)中間テスト	30	土		30	月		30	木	学年末テスト(卒) (中)国府中との交流			30	日					
31	木	(小)博物館学芸員派遣 (中高)中間テスト				31	火		31	金	学年末テスト(卒)			31	月					
22		20				15		18		17				15						
冬季休業日(12月21日～1月6日 17日間)										体験的学習活動等休業日・・・1				学年末休業日・・・7日間						
															203(在校生) 193(卒業生)					

(2) 各 分 掌

教務部

1 目標

- (1) 各教科・各学部間の連絡調整を行い、学習活動や行事等が円滑に行えるようにする。
- (2) 各表簿や指導計画、個別の教育支援計画等の適切な運用と管理を行う。

2 主な活動内容

- (1) 表簿 出席簿・指導要録・補助簿・通知表・個人ファイルの作成、点検、管理
- (2) 教育課程 教育課程の編成、選択教科の履修希望調査（中高）
- (3) 時間割 時間割の編成、時間割表の作成、補欠時間割の調整、特別教室使用割表の作成
- (4) 授業管理 電子出席簿入力、授業時数統計、授業変更
- (5) 行事予定 年間・月間・週間の行事予定作成、週案作成
- (6) 生活時程 生活時程表の作成、見直し(令和7年度小学部生活時程)
- (7) 教務規定 教務規定の周知
- (8) 教科用図書 児童生徒用教科書・教師用教科書・指導書の申請、管理
- (9) 年間指導計画 年間指導計画運用・点検
- (10) 個別の教育支援計画 個別の教育支援計画記入表準備（PCフォルダ）、入力日程・ケース会議の設定
- (11) 入学者募集関係 入学者募集に関する実施要領・必要書類の作成
- (12) 子どもを語る会 子どもを語る会について資料様式の準備、会の進行（年間1回）
- (13) 着任者研修 研修会の日程調整
- (14) 定期テスト 定期テストについて実施計画（中・高）の作成・連絡調整
- (15) 庶務 教育委員会等への報告書類作成
- (16) 教科会 担当教科の授業時間数協議・確認・調整、次年度教育課程編成に向けた検討
- (17) 学習指導要領 学習指導要領の職員配布、管理を行った。
- (18) 儀式的行事・表彰儀式的行事 儀式的行事の企画運営、表彰伝達の実施計画作成、場の設定（運営は総務部）

4. 9（火）始業式・着任式、入学式	1. 7（火）3学期始業式
7. 23（火）1学期終業式	3. 4（火）卒業式総練習
8. 26（月）2学期始業式	3. 11（火）卒業・修了証書授与式
12. 20（金）2学期終業式	3. 24（金）修了式・離任式

3 成果と課題

本年度は教科書選定や教育課程に係る各学部内の話し合いを定期的に行い、次年度に向けての計画について十分に話し合いができるようにした。十分に時間をとることで、教師一人一人がカリキュラムマネジメントの視点で、日々の学習活動について考えることができた。また、各学部間での検討も行うことができ、より系統的な教育課程を作成することができた。定期的に教科会や学部間での情報共有の場を設けることで、さらに充実した指導が行えるようにしていきたい。

個別の教育支援計画や個別の指導計画は、年度初めや各学期末などの節目に書き方や記録の仕方について周知を行った。書式については、より実態や支援内容が分かりやすいものにし、さらに計画的な支援ができるものにしていく必要がある。今後の統合型校務支援システムの導入とも合わせて継続して書式について検討していきたい。

教育研究部

1 目標

幼児・児童・生徒に豊かな心と、たくましく生きる力を育てるために、職員の指導力の向上を図り、聴覚障がい教育を中心とする特別支援教育の専門的な知識や技能の向上を図る。

2 主な活動内容

(1) 実践研究推進・研究会運営

① 全体研究会・学部研究会

＜全体研究会＞ 5月2日…今年度の研究の概要、2月27日…今年度の研究のまとめ

＜学部研究会＞ 毎月1回程度実施（計11回）

＜研究のテーマ＞

聴覚障がいのある幼児児童生徒の語彙の習得をめざして

～「鳥顰スタンダード」の活用とアセスメントに基づく発達・実態に応じた指導～

② 全日本聾教育研究会、中国地区ろう教育研究会

10月17日・18日に第58回全日本聾教育研究大会に校長・研究部員2名で参加した。また、中国地区ろう教育研究会の代議員会に参加し、来年度の運営に向けて協議した。

③ 参観ウィーク・一人1授業

全ての教員が授業を公開し指導力の向上に努めることを目的に実施した。今年度は、研究の取組と参観ウィーク、一人1授業を絡めて実施するようにし、効果的であったとの良い評価が多かった。行事の兼ね合い等により、授業公開や参観の調整が難しいという課題があった。

④ 鳥顰スタンダード

聴覚障がい教育の専門性向上を図る一環として「鳥顰スタンダード（授業の工夫・配慮事項）」を活用した。学部研究会を通して、年3回チェックして学部ごとに平均値を出して共有したり、各学部のスタンダードの重点を明確にしたりしたことで、学部全体で意識して取り組みやすくなった。

(2) 研修関係

① 職員研修

着任者研修は校内の着任者を対象に聴覚障がい教育の専門性の向上に向けた研修を計画し、集合型と音声付きパワーポイント視聴による自主研修の形式で実施した。9月に全体授業研究会（幼稚部3歳児：朝の会）を行い、金沢大学の武居渡先生にお越しいただき、ビデオ視聴・KJ法を用いて学部を越えて授業研究を深めた。また、各学部の授業参観と、指導・助言および講演をいただいた。

② 研究会紹介・職員図書

外部からの研修会案内について、随時ノーツ掲示板を中心に教職員に知らせた。

(3) 検査関係

各種検査等実施の流れを、発達検査とそれ以外の検査に分けた。加えて、発達検査以外の検査は、年度初めに検査実施及び個人情報の取り扱いについての承諾書を取るようにした。

3 成果と課題

今年度は、学校全体が1つの研究テーマの元、同じ研究方法で進めた。また、第1回全体研究会、全体授業研究会、参観ウィーク、一人1授業の日程を早い時期に設定した。さらに、本校の指導方法の基本をまとめた「鳥顰スタンダード」を研究に取り入れた。これらの効果により、学部研究会で授業改善が進んだ。全体授業研究会では、金沢大学の武居渡先生を招聘し、研究への助言をいただいた。今年度の研究を見直し、来年度への展望へと繋がる授業研究会となった。来年度は今年度の研究を土台とし、さらに本校の指導に生かせる研究としていきたい。また、中国地区ろう教育研究会の事務局を担当するため、校内連携を密にして取り組んでいきたい。

自立活動部

1 目標

幼児児童生徒の豊かな心とたくましく生きる力を育てるために、教職員の指導力の向上を図り、自立活動を中心とした聴覚障がい教育に携わる教職員の専門性を高める。

2 主な活動内容

(1) 言語・発音に関する各研修会の企画・運営

「自立活動勉強会」は昨年度より1回多く、年4回行った。着任者研修「本校の自立活動」で作成した研修映像と研修資料による個人研修を他のテーマでも行えるように、今年度は「コミュニケーション手段」の研修動画も今年度中に撮影を終え、来年度には活用できる予定である。

(2) 自立活動教材教具の整備・管理

年度当初に手話辞典及び季刊雑誌「聴覚障害」の購入希望の取りまとめ、発注、配布をした。加えて、各教室に手話辞典を配布し、授業で手話を活用できる環境整備を行った。教材教具およびデータ教材の整理、管理方法の提案し、教材管理を行ってきた。データ教材については、年度当初に掲示板と職員会でデータの閲覧の共通理解を図った。

(3) 自立活動年間指導計画及び自立活動段階表の確認・点検

年度初めに年間指導計画や段階表の作成について、職員会と掲示版で周知を図り、各部の作成状況を各部の担当が点検した。

(4) 自立活動指導プログラム

年度途中にアンケートを実施し、各学部からの意見をもとに、追加や見直しが必要な箇所を自立活動部員で検討を行い、修正・改善を行った。修正・改善の箇所は、小学部の自己のきこえの理解に関する内容、高等部の聴覚障がい者団体に関する知識の部分である。

(5) 中国教育オーディオロジー研究協議会の運営

今年度は夏季研修会が数年ぶりに集合開催で実施され、講演会のみリモート形式も含むハイブリッド型であった。本校から1名が現地で受講した。講演会では、講師の中瀬浩一先生（同志社大学教授）による「きくことと、みることから授業を考える」をテーマに講演があった。冬季研修会では、藤吉昭江 ST（ファーストキッズ）より「セルフアドボカシーとレジリエンス、コーピング」をテーマにした講演があった。

3 成果と課題

全体研修会では、子ども達の自己理解や将来への希望に繋がるロールモデルがたくさんいることを知り、教職員の視野が広がった。また、指導に必要な教材購入や6領域ごとのデータ教材は充実しているが、全体に活用が浸透していないのが現状である。教材教具及びデータ教材の活用や、指導プログラムや段階表を活用した年間指導計画の作成に関しても、周知の時期や方法の工夫を行い、活用を進めていきたい。さらに、自立活動の指導に関する研修動画や資料を作成し、教職員の自立活動の専門性向上をめざしていきたい。

生活安全部

1 目標

- ・健康に関する理解を深め、自主的に心身の健康づくりを行う力を育てる。(学校保健)
- ・健康的な食生活への意識を高め、それを実践する力を育てる。(学校給食)
- ・安全に関する理解を深め、自主的に安全を確保し、緊急時も落ち着いて行動する力を育てる。(学校安全)
- ・生徒が規律を守り、思いやりのある学校生活が送れるよう環境を整備する。

2 主な活動内容

- ・学校保健計画、学校給食計画、学校安全計画をもとに幼児・児童・生徒の基本的な生活習慣と食育の推進、安全に対する主体的な態度の育成を図った。
- 保健関係 健康診断、性に関する指導、歯磨き指導、保健指導、体力作りの取り組み、生活リズムチェックと分析、保健だよりを通じた啓発、食物アレルギーマニュアル作成
- 給食関係 食育指導、給食週間の取り組み、献立表印刷・配布、白衣管理、食数管理、食物アレルギー対応、学校栄養職員による食指導
- 安全・防災 心肺蘇生法講習会、医療的ケア緊急対応訓練、不審者対応訓練、交通安全指導、交通安全教室、防災防火安全研修、火災避難訓練、地震避難訓練（消防署員による講評・起震車）、安全点検、通学路調査
- 生徒指導 全校遠足の実施、児童・生徒指導、生徒心得改訂、カウンセリングの計画実施、休業前しおり作成
- 環境関係 掃除道具の確認・補充、大掃除調整、TEAS（各学期1回）、学校環境衛生検査（ダニアレルゲン、プール水質、照度、空気、日常点検）
- いじめ防止 いじめアンケート実施、いじめ防止職員研修

3 成果と課題

学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画を基にした、健康で安全な生活習慣の徹底・健康維持を意識した体力づくりに、日常的に取り組んだ。生活リズムチェックで平日・休日の生活やメディア利用について把握を行った。実態に応じ、より健康的な生活習慣の獲得に向けて指導を行った。知識として得た内容を日々の生活に取り入れ、習慣化していくことが課題である。

不審者対応訓練では、緊急時の職員に対する情報保障のあり方についても検討し、今年度、初めて Google Classroom を使った情報伝達に取り組んだ。避難訓練では、起震車体験を行い、体験を通じて緊急時の対応について考える機会となった。今後も、休憩時間など教師不在時の避難訓練を通してよりよい対応について検討、参観日を利用した引き渡し訓練の実施等、様々な場面を想定し改善を図っていきたい。

給食では、今年度、全員がランチルームで給食を食べるようにし、机の配置（人数・間隔等）を検討し、感染症対策をしつつ楽しい給食時間となるようにした。また、学校栄養職員による指導を通して、食事のマナーや栄養バランスを意識した食事への意識付けとなった。また、5月に「とりろうピック」と併せて実施した全校遠足では、様々な活動を通して親睦を深めることができた。

これからも教職員が共通理解をする中で必要な課題を学校全体で見つけ、より安全な学校生活を送れるよう取り組むとともに、多様な業務に携わっているため、業務改善も見据え効果的な取り組みを考えていきたい。

総務部

1 目標

(1) 学校内外の広報活動を推進し、本校教育の理解と啓発を図る。

2 主な活動内容

(1) 広報・啓発活動

学校公開を今年度より総務部で担当した。教頭や支援部との連携を行いながら、全校行事的に企画し、全校体制で運営することができた。手話カフェや部活動体験、「ろうの先生の話聞こう」等、新しい催しを取り入れたり、案内を大きく広げたり、報道機関にも情報提供したりした結果、多数の来校者があり、広報啓発になった。

校内掲示板（会議室前、機械室横）、校外掲示板の管理や手話ポスター（年4回）の作成が滞りなくできた。チーフを中心に、年度初めに役割を振っていたので、進めやすかった。

校内ディスプレイの入力・管理、各種刊行物や催し案内の回覧が円滑にできた。

(2) 校内行事の企画・運営

創立記念日行事（校長講話）を学部行事等との調整を行った結果、日にち・時間をずらして学部単位で行うことができた。幼稚部も参加できた反面、やはり全校で行ったほうが良いとの意見もあった。

遠藤記念日行事として、教頭の講話を全校で聴いた。初釜については茶道部が、遠藤先生のレリーフ清掃と寺参りについては高等部3年が運営した。

表彰伝達の声かけ・取りまとめを行い、副賞に目印をつける等、工夫を凝らした。とりろうだよりの「とりろう生の活躍」と上手くリンクできれば、なお良かった。

(3) 「とりろうだより」「龍文」の作成・発行

「とりろうだより」を予定通り3回（学期に1回）発行できた。チーフを2人制にしたのが奏功し、例年よりも早く仕上がって配布できた。学校関係はメール配信とし、郵送先も精選し、経費削減を図った。

「龍文」のスケジュールを見直し、余裕をもって作成した。昨年度より学校HPに掲載して全体公開の方法をとり、幅広く閲覧できるようにしている。

(4) 歴史の部屋の管理

歴史の部屋を学校祭前に整理することができた。今後、資料の管理や部屋の整備、活用方法の提案を行っていきたい。

3 成果と課題

成果としては、学校公開や「とりろうだより」を通して、学校内外の広報活動を推進することができた。また、昨年課題であった、前年度の業務の引継ぎができる持続可能な分掌体制づくり、発行物の作成におけるスケジュールの見直しも改善された。

課題としては、学校紹介パネルの必要性についての検討、とりろうだよりの発送先の整理が残る。

今後、より一層、本校教育の理解・啓発や入学者募集につながる事業を展開していきたい。

情報部

1 目標

- (1) ICT 教育の推進に向け、広く情報発信を行う。
- (2) ICT 機器等を活用して充実した教育活動が行えるよう、環境整備を行う。

2 主な活動内容

(1) 情報機器の管理・活用

高等部では CYOD(Choose Your Own Device)端末を導入し 2 年目となり、家庭学習での活用も進み、教師から課題提示や生徒から課題提出をすることが増えている。中学部でも、タブレット端末を活用して授業後の感想やアンケートを入力するなど、使い方に慣れてきている。

本年度は、教職員用に指導用 iPad が新たに 3 台配備された。様々な研修で ICT 機器を活用する機会が増えたこともあり、研修等に持ち出して活用する教職員が増えている。

(2) 職員研修

教職員の授業や校務での ICT 活用の促進を目的として定期的にお役立ち勉強会を行い、教職員からの問い合わせが多かった事項を中心に扱った。今年度は ICT 支援員の協力を得ながら、「Canva」の操作についての研修を複数回行い、これを契機に授業等で活用する教職員が増えた。

(3) 情報教育

①情報モラル研修

本年度も中学部と高等部の生徒を対象にスマホ・ケータイ安全教室を行った。身近に起こるインターネットトラブルについて事例紹介を聞いたりして、情報の集め方や発信の仕方など情報を正しく活用する力の育成をめざした。



スマホ・ケータイ安全教室

②ICT 教育推進計画

令和 6 年度の ICT 教育推進計画案を前年度から引き継いでいたが、策定・周知を行えなかった。その点は大きな反省点である。来年度に向けての課題を明確にし、令和 7 年度の ICT 教育推進計画案を考えて引き継ぐ。

(4) ウェブ等での情報提供

今年度の学校戦略事業にもなっている「発信 TORIRO」の重要な取り組みの 1 つとして、効率的なホームページの更新を行った。ホームページの更新を各学部が曜日で担当し、最新の情報や学習の様子をホームページで公開した。今後も学校ホームページの定期的な更新と適正な運用に努める。

3 成果と課題

ICT 支援員の協力も得て、円滑に業務の遂行ができた。今後は、ICT 教育の全体計画をより分かりやすいものにし、学校全体で同じ取組を計画的に行うことで、幼児・児童・生徒及び教職員のスキル向上をめざしていく。そのために必要な環境整備等も引き続き行っていく。

進路指導部

1 目標

- (1) 自らの将来の生き方への関心を深め、自己実現への意欲・態度を育てる。
- (2) 自らの希望・能力・適正等に応じた適切な進路観・職業観の育成を図る。

2 主な活動内容

項目	主な活動内容
進路指導	年間行事の企画・渉外・各種調査・進路希望調査の実施
	進学・就職対応の諸テスト（学力診断テスト・校外模試等）
	進路指導（高校・職場見学、大学説明会など）先輩に学ぶ会
研修	職場・学校見学
	保護者研修 学校説明会時の進路の取り組みを紹介
	生徒・教職員研修 求人票の見方について 障害基礎年金に関する説明会
職場体験学習・現場体験学習	職場体験学習(中)・現場体験学習(高)の実施
進路開拓・フォローアップ	職場・大学等・卒業生の実態把握、事業所や上級学校等への訪問
キャリアパスポート	キャリアパスポートについて各学部で説明する。
就労促進セミナー	7月 9日(火) 10:00～12:00 福祉人材センター
東部地区福祉セミナー	9月19日(木) 10:00～12:00 福祉人材センター
キャリア教育全体計画	キャリア教育全体計画・進路指導年間計画の作成
進路だよりの作成	進路だよりの原稿を各学部主事の先生に依頼

(1) 職場・学校見学

生徒・職員・保護者のニーズに応じた見学先を考え、高等部はFDK株式会社、株式会社コクヨMVP、円山菓寮鳥取工場の見学を、中学部は鳥取湖陵高等学校と株式会社アテンドなどを見学を実施した。いろいろな施設を見学したり実際の製造工程を見学して体験したりすることができたので、より良い体験学習となった。生徒は、上級学校への進学に向けて頑張りたいという気持ちを持ったり、身近な地域の産業に興味を持ち、自分の進路に関する意識を高めたりすることができた。



(2) 職場体験学習・現場体験学習

中学部の職場体験や高等部の現場体験学習は、生徒や保護者、担任の考えを聞きながら、実習先を決定した。今年度もたくさんの企業や事業所にお世話になり、実習することができた。生徒たちは、自分が得意なことや苦手なことに気付いたり、仕事をする楽しさや厳しさを学んだりすることができた。

本年度はデンソー株式会社の見学会に高等部生徒1名が参加した。県外の自動車産業を見学、体験をすることで進路選択のイメージを持つことができた。

(3) 先輩に学ぶ会

2月に本校の卒業生に来ていただき、講演会を実施した。中学部から高等部の生徒が参加し、現在の仕事や生活の様子について聞き、仕事をする上でコミュニケーションが大切であると学んだ。

(4) 卒業生のフォローアップ

令和3年度と5年度の卒業生のフォローアップを実施した（令和4年度は卒業生無し）。それぞれの卒業生が頑張っている様子について、進路だより等で紹介した。

3 成果と課題

今年度も、生徒や保護者・教職員のニーズに応じて現場体験学習先を探し、個々の進路指導を根気強く継続することができた。今後の改善点として、他学部との連携を図ることができるよう、研修会に参加したり、進路に関する話題を今以上に発信・提供したりしたい。

また、保護者研修会を実施し、幼児児童生徒の将来の進路について見通しを持ったり、一緒に考えたりする機会を設けたい。

将来に向けて、「自分から行動する生徒」や「周囲とのコミュニケーションを大切にする生徒」の育成を目指し、生徒自らが進路を拓いていくことができるよう、職場開拓をしたり、情報を提供・発信したりしていく。今後も、生徒・職員・保護者のニーズに応じた活動を実施していく。

(3) 各 学 部

幼稚部

～思いをことばに～

1 めざす子ども像

- のびのびと自分の思いを伝える子ども
- 友だちが大好きで関わる子ども
- いきいきと遊ぶ元気な子ども

2 主な活動内容

(1) 学び合う子どもプロジェクト

体験や経験の言語化をねらいとして「朝の会」を行った。今年度幼稚部に入学した3歳児や、見通しが持ちにくい重複障がい学級の子ども、医療的ケアが必要で活動のペースが合わせにくいことがある子どもと実態が様々で、年度当初はなかなか「朝の会」が成立しなかった。しかし、子どもが分かるように進めること、子ども同士の話し合い活動を目指す前にまず自分の思いを伝える場とすること、教師の中で決めていた活動の流れと異なることになっても子どもの心が動いたことを活動の中心に据えながら進めていくことなどを幼稚部職員で共通理解し、今年度の幼稚部の「朝の会」を目指して取り組んだ。

見通しを持ち、自分の発表の場や気持ちを伝える場があり、聞いてくれる教師や友だちがいることが実感できるようになると、子どもたちは、馬蹄形に置いた椅子に座って教師の話や友だちの発表を聞くようになった。空模様や天気をその場で一緒に確かめて、「ぼつぼつ、あめ」とことばにしたり、絵日記の絵を指差ししながら「まま」「ぱぱ」とキューサインに音声のをせてことばにしたりして、伝えようとする姿が見られるようになった。学級での「朝の会」、学部全体での「合同朝の会」を通して、ことばの模倣をする、聞く、表現するといった、言語活動の基本を身に付けていった。



(2) かなえる子どもプロジェクト

嬉しいときや楽しいときはもちろんのこと、怒っている様子のときや活動に加わろうとしないとき、泣いているときなどに「恥ずかしい」「寂しい」「やめて」など、気持ちを表すことばを手話やキューサインなどで伝えてみせ、行動での訴えにことばを添えていくようにした。年度当初は思いを行動で示すことが多かった子どもたちが、教師に信頼を寄せるようになり、手本を模倣して気持ちをことばで表すようになり、他者と関わろうとする姿が見られるようになった。

また、子どもが気持ちを伝えようとしてきたときに、教師が最後まで聞いて分かれようとする姿勢を示すことで、聞いてもらえる安心感が持てるようになり、それが他者に気持ちを伝えようとする意欲に繋がった。喧嘩になっても、「いや」「やめて」「ごめん」など、ことばで表現して伝えたり、友だちのことばを受け止めたりする過程を通して、気持ちを落ち着かせ、自分の気持ちに折り合いをつけながら友だちと仲直りをしたり活動に参加したりするようになった。

(3) やりぬく子どもプロジェクト

「歌と体操」の時間に、電子黒板に映し出した動画を見ながら動きを模倣して体操やダンスをし、体を動かした。繰り返し取り組むと、音源だけでも音楽やリズムに合わせられるようになるのびのびと体を動かして楽しむ表情が見られた。運動機能や経験に制限や差があっても、ダンスや体操はみんなと一緒に取り組むことができ、一体感が得られた。子どもも教師も一緒になって取り組み、はじめは難しかった動きがだんだん出来るようになっていく喜びを感じたり、動きが揃ったときの達成感を感じたりした。



(4) オリジナルプロジェクト

幼稚部では、ごっこ遊びでの役割を演じながらのやりとりや、体験的な活動の中での言語活動を通して、思いをことばにしていく力を育てている。今年度は、親子遠足でバスに乗って出かけた経験をみんなで共有しながらバスごっこのイメージを膨らませた。遠足から帰ってきて、まず「バス」「タイヤ」「窓」など、物とことばを一致させながら自分達のバスを作った。そして次に「バス停」「道路」「信号」「横断歩道」など場所に関することばを知ったり覚えたりしながら遊び場を作った。更に、実際にみんなで行った「イオン」や「わらべ館」「動物公園」もバス停近くに作り、ごっこで遊びに出かけられるようにした。自分達で1つずつ作ったり準備したりしたことで、場の設定を理解し遊んだ。行き先を決めてバス停でバスを待ち、バスが来ると手を上げて知らせる乗り、目的地に着くと運転手に降りることを伝えて降りるといった具合に、まるで本当に出かけているかのようにして遊ぶ姿が見られた。「乗りますか」「はい、乗りたい」「降りますか」「ない（降りない）」「お金、ください」「はい」「ありがとう」など、運転手さんとお客さんの役になってやりとりしながら遊んだ。

役になりきりながらごっこの中で遊ぶことに慣れてきた頃に、他学部の児童や生徒が遊びに加わった。決まった文言ではなかったり、普段やりとりをしていない相手であったりしても、慣れていない相手でどんなやりとりになるかわからないからこそ、互いに相手が何を伝えようとしているのかじっと見て、分かろう、伝えようとする姿が見られた。ごっこの世界に入り込み、やりとりをも楽しみながら遊ぶ中で、ことばを自分の物としていく営みがあった。



3 成果と課題

子どもたちは、教師との1対1のやりとりから、集団での活動や大きな行事での発表に至るまで、どんな場面でも、それまでに身に付けてきた手持ちのことばと、その時その時に手本を模倣して覚えたことばや表現とを、織り交ぜて気持ちを伝えようとした。活動や遊びが一区切り付くごとに、新しいことばが染みこむように手持ちのことばとなり、思いを表すことばが増えてきている。言語活動を中心に据えることで、体験が整理されて心に残り、経験として積み重ねることができた。また、気持ちを自覚して他者に伝え、納得しながら活動したり遊んだりすることができるようになってきている。

一方で、子どものことばや表現が増えるにつれて、話そうとする内容も細かく複雑になってくる。学校と家庭で共にことばを育てていく関係性を築いて子どもの思いの経緯や背景などエピソードを共有し、ことばの拡大を支える関わりや言語活動を展開していきたい。

小学部

～レッツ・チャレンジ～

1 めざす子ども像

- 自分の思いや考えを伝えようとする子ども
- 友達や教師との関わりを楽しみ、自分のよさに気づける子ども
- 体を動かす楽しさを知り、進んで体を動かそうとする子ども

2 主な活動内容

(1) 学び合う子プロジェクト

体験的な学習を設定し、集団で行事の事前事後学習や栽培・収穫・調理等の活動を行うことで、体験とことばを結びつけ、ことばの拡充を図った。子どもの気持ちが動く機会を捉え、子ども同士のやりとりでは教師が仲立ちをしながら、相手に伝えたいという思いが育つよう支援した。

また、模倣や復唱を促したり、学習の足跡を掲示として残したりするなど、ことばの定着を図ることができる支援を学部全体で共通理解しながら、学習指導を行った。学部研究会や一人1授業を通して、授業検討、鳥豊スタンダードの小学部の重点項目の確認を行い、指導力の向上を図った。9月に行われた全体授業研究会では、小学部3年生の自立活動の授業を全教職員が参観し、金沢大学の武居渡教授から指導助言をいただいた。一人学級の児童が多様な視点を学ぶためのヒントや板書の必要性、助詞の指導を含めた文章力向上のための指導法を教わった。子どもに分かる言葉を使うだけでなく、少し背伸びした新しい言葉を投げかけること、語彙の学びに対するエンジンをかけていくこと等、聴覚障がい教育に携わる教師が心がけておくべきことを共通理解することができた。



(2) かなえる子プロジェクト

図工や書道等のコンクールや漢字検定に挑戦したり、日々の学習のまとめ、絵画や工作を廊下に掲示して見てもらったりする機会を設けた。絵画や工作のそばに用紙を置き、感想を記入してもらったり、コンクール等で賞をもらったりすることで、少しずつ自分や友達のよさに気づき始めている。



また、思いや考えを伝え合う関係づくりのために、よりよい「聞き方・話し方」を学部全体で共有し、意識づけを図った。それを意識しながら行事の役割分担や休憩時間の遊びを児童同士で相談し合うことで、自分の思いに理由をつけて伝えたり相手の気持ちを聞いたりするなどの力が育ってきつつある。学校祭ステージ発表では、話し合い活動を大切にし、児童が自分たちで内容や台本を作り上げていく経験を積んでいった。聞き手を意識したり、やりたい気持ちに折り合いをつけて譲ったりするなど、一人一人の児童の成長が見られた。

(3) やりぬく子プロジェクト

中間休憩を利用し、週に2回、レッツチャレンジタイムを設けた。鳥取県「遊びの王様ランキング」を参考にした大縄跳びや新聞やり投げ等を行ったり、ダンスや体操をしたりすることを通して、様々な動きのレパートリーを増やし、体力の維持向上を図った。その他の曜日には、天候に応じて中庭や体育館等で鬼ごっこや竹馬等をして、友達と関わりながら体を動かす機会を設定し、教師も適宜遊びに入って遊びを広げた。



外部講師「ちやれきんぐ」の指導では、普段しない体の使い方を教わり、運動量も確保することができた。「希笑」のダンス指導では、児童の興味関心がありそうな曲や振付を選ぶことで、主体的に学習に取り組み、休憩時間には自分たちで集まって自主練習を行う姿も見られた。主体性と身体表現の力を伸ばし、発表会では保護者や教職員を前に笑顔で踊りきり、達成感を味わうことができた。

(4) オリジナルプロジェクト

行事や体験的な学習を通じ、自己肯定感の向上を図った。宮ノ下小学校との学校間交流では、ICTを活用したり伝え方を工夫したりしながら、学校案内や聴覚障がいについての説明を行った。お互いに手話や身振り、文字等でコミュニケーションをとろうとする姿が印象的であり、有意義な交流となった。



3 成果と課題

小学部は一人学級が多く、自分の言いたいことを一方的に話したり、伝わらないときにはすぐにあきらめたりする実態があった。そのため、人と関わりながら自分の思いや考えを伝えようとする姿を目指し、できるだけ集団での学習や人と関わる場面を設定した。集団の中で教師が意識的に一つ一つの学習や活動を丁寧に扱い、教師と子ども、または子ども同士の主体性を大切にしながら、時には一歩引いた支援を行うことで、子どもたちの人と関わる力、伝え合う力が育ってきつつある。一方、児童の話し合い活動の中で、メインとサブの教師がどのように連携するのかを事前に共通認識しておく必要性も感じている。

また、学部としての仲間意識、集団規律を学ぶ機会がコロナ禍で不足していた実態もあった。教室移動や学部遠足の際にリーダーを先頭に一列に並んで歩いたり、朝の係活動や給食当番活動をしたりする中で、少しずつ周りを見て動くことや人に合わせることなど、小学生としての仲間意識や集団規律が育ち始めている。今後も継続して取り組みたい。

中学部

～Let's Enjoy～

1 めざす子ども像

- 自分の目標をもって学習に取り組む生徒
- 自分の良さを知り、相手の良さや思いを受け止め、自分の思いを伝えることのできる生徒
- 基本的な生活習慣や学習に向かう基礎体力を身につけている生徒

2 主な活動内容

(1) 学び合う子プロジェクト

語彙習得確認のため、読書力診断検査を実施した。診断検査の結果を踏まえ、週3回の帯自立を集団で設定した。個々の実態に応じたスプレッドシートに取り組んだり、日本語と手話の確認をしたり、テーマに沿って生徒同士で話し合う時間を作った。この取組の結果、語彙が増え、自分の思いを言語化する場面が多くなってきた。

三校交流会では、リモートで鳥取養護学校と交流した。お互いの学校紹介を行った。本校中学部の生徒は、聾学校に通う生徒について、また校舎内で工夫してある場所等を動画で撮影し、手話や言葉で詳しく説明した。お互いの学校について理解を深めると共に和やかな雰囲気の中、最近の流行りについて情報交換を行うなど楽しいひと時を過ごすことができた。

国府中学校との交流では、それぞれの学校で実行委員会を立ち上げ、生徒主体で交流について計画を進めた。話し合いを重ねる中で、コミュニケーションの取り方について壁にぶち当たりそうになることもあったが、手話・口話・筆談・ジェスチャーを使い、お互いの思いや考えを伝えようとすることができた。この交流を通して、様々なコミュニケーション方法を使うことで、スムーズな対話が可能になり、地域の中中学生との関係を広げることができた。

いろいろな人と触れ合うことや体験することで、自分の課題に気づけたり目標設定を変えたりするなど、前向きな姿が見られるようになった。



(2) かなえる子プロジェクト

学年に応じた進路の充実を図るため、3年生は高校見学や体験、居住地校での高校説明会等に参加し、多様な選択肢を知った上での進路選択に繋げることができた。生徒は、見学や体験を通して魅力的な進学先(高校)を発見し、進学に向けて努力を重ねたが、自己理解の面で課題があった。今後の学部運用に生かしたい。2年生は、3年生の姿が自分たちの将来を想像するきっかけになった。自分で進路選択ができるよう、計画的に進路学習を進めていきたい。職場体験学習では、職場の多くの人との触れ合いや交流を通して、コミュニケーション能力を高めると共に、社会人としての基本的なマナーや言葉遣いなどを身に付けることができた。担当者から評価してもらうことで、自分の良さや課題にも気づくことができ、学校生活の中でどのように生かしていくかを考えることができた。



（３）やりぬく子プロジェクト

学習や運動、行事等に向かう時、必ず個人目標を決めた。また、個人目標だけではなく、学部目標も決めることで仲間と協力して活動を楽しむという意識付けに取り組んだ。「あきらめず挑戦しつづける中学部」と掲げた目標を絶えず確認することができるように掲示したり、学習の中で教師が確認したりする機会を多く持ったことで、生徒への意識づけに繋がり、目標を達成したいというモチベーションに発展することができた。

スマートフォンやゲーム等の利用時間が長くなることで、家庭生活のリズムが整いにくく、家庭学習や睡眠時間の確保ができず、翌日に影響する場合があった。また、家庭学習が定着するよう、放課後の補習や個々の宿題の内容や出し方の工夫、基礎学力の定着を図り、繰り返し、復習プリント学習をすることで学習の積み上げができるよう取り組んだ。継続して声かけや放課後の補習や宿題の工夫に取り組んでいきたい。

基本的生活習慣の定着の一つとして「挨拶」を取り上げ、一年間、学部で共有し、継続して指導を行った。相手の目を見て挨拶をすることで、生徒の思いやりや感謝の気持ちを育むことができ、道徳性を高めることができた。



（４）オリジナルプロジェクト

東部総体や高校見学・体験、職場体験等、楽しみながら体験し、視野を広げ、進路実現を図った。校内から校外へ、いろいろなことを自分で体験して視野を広げたことで、新たな視点や考え方を取り入れ、それらを自分が抱えている課題に当てはめることでレベルアップし続けることができた。

6月6日（木） 7日（金）	鳥取市中学校東部総合体育大会に参加（陸上・卓球の部）
6月11日（火）	高校・職場見学（鳥取県立湖陵高等学校・ローソンポプラ）
6月12日（水）	高校説明会に参加（倉吉市立東中学校との交流）
7月10日（水）	施設見学 （鳥取ユニバーサルスポーツセンターノバリア・鳥取県聴覚障害者東部センター）
7月22日（月）	高校見学（鳥取私立敬愛高等学校）
7月25日（木）	高校体験入学（鳥取県立倉吉総合産業高等学校）
9月2日（月）～6日（金）	職場体験学習

3 成果と課題

見通しを持って学習や行事に取り組むことができた。今後、社会に出ることを考え、新しいことに数多くチャレンジしてきた。その中で、見通しが持てないことや新しいことに挑戦することで予想しない失敗を経験し、コミュニケーションの壁に悩むこともあった。

在学中にこのような経験をすることで「自分はこうしたらいいのか」考えるきっかけ作りとなった。それぞれが多様な経験を重ねながら、様々な得意分野の能力を伸ばしていきたい。また、苦手な分野を克服しながら、社会で生きていくために必要となる力をバランスよく身に付けられるような学習や行事の計画・運営を考えていきたい。



高等部

～夢をつかめ！～

1 めざす子ども像

- 自分の考えを積極的に発言する生徒
- 進路実現に向け、自主的・計画的に取り組む生徒
- 挨拶や返事、提出物等の習慣が身に付いている生徒

2 主な活動内容

(1) 学び合う子プロジェクト

高等部では、生徒一人一人の進路実現をかなえるため、生徒の実態を踏まえた分かりやすい授業づくりと、生徒が思考し発言する機会の充実をめざした。特に学部研究では、全体研究テーマ「聴覚障がいのある幼児児童生徒の語彙の習得をめざして」のもと、高等部段階での語彙に関する課題と育てたい力について取り組んだ。

具体的には、日本語と手話言語の習得状況の異なる3名の生徒を研究対象とし、日本語能力試験問題の結果から語彙・文法・読解・聴解(聴覚情報の理解)の実態を分析した。また、分析結果と併せて、言語に関する学習上のつまづきや卒業後の生活に必要な力を抽出し、重点目標を設定して授業改善を行った。結果と考察として、「高校生段階の言語に関する標準的なアセスメントがなく、日本語能力試験は指標の一つとしては有効だった」「生徒の実態を踏まえた授業改善の取組は、生徒の変容や実態把握の深化につながった」「高等部段階では『語彙の習得』に限定せずトップダウンの視点を踏まえた言語力を研究したい」とまとめた。聾学校は言葉を丁寧に扱う学校であり、「語彙」に着目した今回の研究は意義深かった。

本校の授業の工夫・配慮事項をまとめた「鳥聾スタンダード」については、高等部で取り組む重点項目について自己評価の変容を把握し、全ての重点項目について向上が見られた。定期的な自己評価や一人1授業の取組が自己研鑽につながっていると考える。

(2) かなえる子プロジェクト

7月12日(金)に職場見学を行い、FDK株式会社、円山菓寮、コクヨMVPを訪問した。働く様子や施設・設備を実際に見学することによって、見学先に興味を持ったり自己の適否について考えたりする生徒の姿があった。9月2日(月)から6日(金)まで実施した現場体験学習では、生徒一人一人が、コミュニケーションをはじめ課題と感じていることにチャレンジし自己理解が深まった。就職希望の生徒については、これらの機会の他にも職場見学及び現場体験学習を柔軟に設定し、進路選択や就職活動につなげた。大学進学を希望する3年生については、進路希望先の学校見学・体験や志望動機に関連する企業や施設の訪問、青翔開智高等学校との合同入試対策に取り組んだ。合同入試対策は交流及び共同学習としても有意義であり、今後も幅広い機会を捉えて実施したい。



職場見学(円山菓寮)

(3) やりぬく子プロジェクト

生徒が主体的に学校生活に関わり、自主的に学習に取り組む意欲や力が必要となる。挨拶や宿題・提出物に関して教師の促しが必要な生徒が多い実態から、生徒が自分事として生活習慣を改善しようとする意識付けが必要であると考え、9月現場体験学習前に生徒対象のアンケートを実施し、結果は

下表のとおりだった。結果を生徒・保護者と共有するとともに、各学級で充実した高校生活に向けた話し合いを行った。特に挨拶については重点課題ととらえ、挨拶強化週間の設定や個人目標の設定・評価に取り組んだ。生徒が課題意識を持ち続けることができるよう今後も継続して取り組みたい。

(括弧内は昨年度1月との比較)

質問	挨拶	返事	宿題	提出物	iPad の活用 (Gメール)	iPad の活用 (調べ学習)
回答	進んで挨拶する 62.5% (+12.5)	声に出して返事 25% (+12.5)	締切までに提出 25% (+12.5)	締切までに提出 12.5% (+12.5)	その日に確認 12.5% (-25.0)	1日1回 37.5% (-25.0)
	挨拶されたら返す 37.5% (±0)	うなずき・首振り で返事 75% (±0)	遅れて提出 62.5% (-12.5)	促されて提出 75% (±0)	翌日に確認 37.5% (+25.0)	1週間の半分 25% (±0)
	挨拶していない 0% (-12.5)	返事していない 0% (-12.5)	宿題をしない 12.5% (±0)	遅れて提出 12.5% (-12.5)	2日目以降確認 25% (+25.0)	1週間に1回 0% (±0)
					促されて確認 25% (-25.0)	ほとんど使用無 37.5% (+12.5)

(4) オリジナルプロジェクト

2年生3名が全国高校生手話パフォーマンス甲子園に挑戦した。初の漫才に挑戦し、「伝えることをあきらめない」のタイトルのもと、話し合いと練習を重ねて作品を創り上げた。結果は予選敗退となったが、「自分の考えを伝えること」「相手の考えを受け止めること」「相手の良い所を見つけること」といった点で生徒は大きく成長した。今後、生徒数の減少が見込まれるため参加方法や演技内容の工夫が必要となるが、できる限り継続して取り組みたい。

岩美高等学校や青翔開智高等学校との交流及び共同学習、あおば地区公民館での野菜販売、鳥取市議会との意見交換、とっとり手話まつりへの出演、鳥取県探究成果等発表会への参加など、校外での活動や交流を重視した。生徒の考えや視野を広げる貴重な機会となり、その教育効果は高いと感じた。今後も積極的に取り組みたい。



手話パフォーマンス



岩美高等学校との交流



鳥取県探究成果等発表会

3 成果と課題

高等部の生徒は素直で真面目な一方で、人との関わりに苦手意識があり、教師の促しを受けて行動しがちな実態があった。校外での活動や交流の機会を重視するとともに、一つ一つの学習等において生徒が主体的に取り組めるよう指導・支援することで、生徒の意識が学校から地域へ、高校生活から卒業後の生活へと向かい、挑戦する気持ちが高まってきた。今後、生徒数の減少に伴い、学習や行事の精選や工夫が必要となる。生徒一人一人の能力を最大限に伸ばし夢や目標をかなえるために、鳥取聾学校の良さを生かした教育活動の企画・実施に努めたい。



支援部

～めざせ！みんなの頼れるサポーター！！～

1 めざすセンター的機能

- (1) 保護者が子どもと目を合わせたかかわりを大切にして実践できるよう支援する。(乳幼児教育相談)
- (2) 地域で学ぶ児童生徒が、自分のきこえやことばに関する学習に意欲的に取り組むことができるよう指導や支援を行う。(通級指導)
- (3) 担任や保護者のニーズに応じた情報提供を行い、関係機関とつながるよう支援したり、本校の取組を発信したりして連携を深める。(関係機関との連携)
- (4) 担任が児童生徒の課題を捉え、自立活動の内容や手立てを実践に取り入れることができるよう支援を行う。(校内・校外自立活動支援)

2 主な活動内容

(1) 乳幼児教育相談

就学前の乳幼児17名(きこえ15名、ことば2名)に対し、週1回から月1回程度定期相談を実施した。きこえの子どもの程度は軽度から重度まで様々で、聴力以外の障がいを併せもつ子どもも複数いる。子どもと保護者が目と目を合わせてやりとりをする事を大切にし、子どもへのかかわり方についての保護者支援を行った。ことばの相談は、主に5歳児を対象に、来校もしくは中部にあるわくわく教室で相談を実施した。

乳幼児教育相談において、2ヶ月に1～2回程度の頻度で合同活動及び保護者研修会を計画し、計9回実施した。保護者研修会では、きこえのしくみやことばの育ちに関する研修の他、先輩保護者や都立大塚ろう学校早期教育相談員の南村洋子先生の話聞く機会を設けた。個別相談と合わせ、合同活動及び保護者研修会を通して保護者がきこえやことばについての理解を深める機会となり、子どもへのかかわり方を考え、家庭でもよりよいかわりを実践しようとする姿につながった。

(2) 学齢期教育相談

きこえとことばについての教育相談を実施した。きこえでは、難聴学級を新設した4校に本校が作成した聴覚障がい教育に関する職員向け研修パッケージ(音声付きパワーポイント)を紹介し、難聴児の理解を図った。ことばでは、小学校の知的障がい特別支援学級からの相談が多く、把握した実態に合わせて課題改善のための指導・支援について助言を行った。

(3) 通級指導

児童生徒を対象に、児童15名(きこえ2名、ことば13名)の通級指導を巡回又は来校の形態で実施した。難聴児への主な指導・支援の内容は、個々の実態やニーズに応じて、補聴器管理、補聴器の装用、聴覚活用、生活上の困り感や課題に寄り添い、対処法を話し合う活動を行った。また、構音等に課題のある児童に対しては、口腔機能を高め、課題音の改善を図ったり、聴覚的弁別力を育てたりする活動を継続した。今年度は、サ行音やラ行音に課題のある児童が多くみられた。学級担任や保護者との連携を大切にしながら、改善がみられないケースについては、専門家の助言を受けるように努めた。

(4) 関係機関との連携

①保健師との情報交換

新生児聴覚スクリーニングリファーマ（要再検査）となった保護者に対する支援体制の充実を図るために、東部・中部・西部の各地区の保健師との情報交換会を実施した。今年度、検査の流れに一部改訂（サイトメガロ症候群の治療が関連）があり、結果説明が生後21日以内となったことに関連して、保護者の気持ちに寄り添い、支援をつなぐことができるよう情報交換を行った。学校見学や施設見学の後、乳幼児教育相談の説明を行い、保護者への対応や伝え方を共有した。

②難聴学級担任との情報交換会

6月20日（木）に5名の参加者があり、難聴児へのよりよい指導支援について研修や情報共有を行った。今年度は学校公開日に開催し、研修内容に授業参観を設定した。また、事前に集約したアセスメントを基に作成した自立活動年間指導計画案を参考に、参加者が自立活動コーディネーターに相談しながら自作の年間指導計画を見直すワークショップを行った。

③小・中学校別難聴学級オンライン交流会

小学校、中学校難聴学級を対象に、オンラインでの交流会を各々2回ずつ行った。1回目は小学校、中学校ともに自己紹介や聞こえにくい時の対処法等を発表した。小学校での2回目は、自分の補聴器の紹介等をした。中学校では、難聴学級在籍経験のある本校教師の人権作文の感想を伝え合う等した。自分の思いを伝え合いながら、友達同士でつながる機会となった。

④研修パッケージ・ポスター・ホームページでの情報発信

難聴児が在籍する地域の園や学校、関係する機関が職員研修としていつでも活用できる「聴覚障がい理解とその支援」「聴覚障がい児の言語指導」など研修パッケージ（音声付きパワーポイント）を作成し、配信した。また、新しく相談啓発ポスターを作成し、早期支援に関わる他機関に配布した。ホームページで支援部の活動を紹介するとともに、支援部紹介ページを更新した。

(5) 校内・校外自立活動の支援

特別支援教育コーディネーターと連携を密に取りながら活動を行った。情報交換会では、地域の学校に在籍する聴覚障がい児の自立活動に携わる教員を対象に、年間指導計画の立て方の助言を行ったり、指導に使う教材を紹介したりした。教育相談では、特別支援教育コーディネーターと共に地域の学校に訪問し、自立活動の学習内容や、各教科の授業での難聴児への支援について助言を行った。また、難聴学級の先生方と支援部のクラスルーム「きこえの部屋」を通して、教材の提供や情報提供を行った。校内の自立活動支援では、年間指導計画の内容を担当と相談したり、教材を紹介したり、授業のサポートに入ったりした。現在、自立活動コーディネーターは1名で活動を行っており、活動内容の引き継ぎが課題である。

3 成果と課題

今年度は、「みんなでつながろう虹色プロジェクト」の一環として、乳幼児期の合同活動及び保護者研修会の充実を図り、学齢期においては、難聴学級オンライン交流会も新しい試みとして取り組んだ。子ども、保護者、担任とそれぞれのニーズに応じた学びの機会、また交流する機会としてつながりをサポートすることができた。

「発信！鳥ろう」の取組として、高等部主事と特別支援コーディネーターが地域の学校で生活するきこえにくさのある小学生（高学年）から中学生を対象に学校訪問を行い、その取組が進路に関わる視点で相談活動につながった。研修パッケージによる情報発信が始まったことに加えて、支援部ポスターをリニューアルし、相談希望者に必要な情報が伝わるようにした。今後はポスターの配布や研修パッケージなどの情報発信ツールを有効に活用し、本校のセンタース機能理解啓発するとともに、聴覚障がい教育に関わる関係機関の担当者や相談者のニーズをより迅速に把握して対応していきたい。

事務部

1 目標

- (1) 学校教育目標の達成に向けた様々な教育活動を支援する。
- (2) 安全安心に過ごすことができる学校教育環境を整備する。

2 主な活動内容（施設設備整備の状況・令和7年1月末現在）

(1) 工事・営繕関係

工 事 名	工事費(千円)	工 期	業 者 名
トイレ改修工事（建築・設備）	県契約	R6. 6. 21～R6. 11. 15	ヤマタホーム（株） （株）高千穂
管理教室等ほか冷暖房設備更新工事	県契約	R6. 5. 17～R6. 10. 31	日本上下水道工業（株）
プールサイド補修工事	1 9 8	R6. 6. 19～R6. 8. 8	山陰東陽化成（株）
講堂LED照明器具取替	1 6 5	R6. 9. 3～R6. 9. 25	赤松商会（株）
学校名表示板修理	7 7	R6. 11. 29～R6. 12. 20	(有)松島工芸社
埋設配管給水管漏水修理	3 9 9	R6. 12. 16～R6. 12. 27	(有)谷口管工事
(分校) 幼稚部玄関横門扉撤去及び メッシュフェンス設置	2 8 1	R6. 6. 20～R6. 7. 24	(株) 石田コーポレー ション

(2) 物品関係（備品単価10万円以上）

事業名等	品 名	数量	購入額 (千円)	備 考
一般管理備品	一眼カメラ	1	1 2 3	本校
理科教育備品	戸田式霧箱	1	1 8 0	本校
図 書 館 図 書	本校	—	5 0 0	
	分校	—	3 0 0	
寄 付 物 品	イオングフトカード	イオンリテール（株）		
	図書カード	（社福）鳥取市社会福祉協議会		
	職員図書	鳥取県特別支援教育研究会東部支部		

3 成果と課題

物価高騰や厳しい県の財政運営が続く中で、限りある学校予算を効果的に執行するため、費用対効果や優先順位を考慮しながら適時適所の対応に努めた。

今後も行政職員、現業職員としての専門性を発揮し、安全安心な学校教育環境の整備をはじめ、日々の教育活動や各種事業の円滑な実施をサポートしていきたい。

【参考】令和6年度予算の令達状況（令和7年1月末現在）

（単位：円）

予算主務課	科目名	金額	説明（主な事業）
教育総務課	事務局費	188,670	障がい者就労支援（ワークセンター）
体育保健課	保健体育総務費	3,801,066	学校保健、学校給食
人権教育課	教育振興費	30,200	人権教育推進支援
小中学校課	教育連絡調整費	53,072	エキスパート教員
教育人材開発課	特別支援学校費	21,240	帯同看護師費用
教育環境課	教育連絡調整費	15,000	高校裁量予算独自事業（米子高関係）
	教育財産管理費	4,584,200	教育施設営繕（一般営繕）
	特別支援学校管理費	28,385,965	学校裁量予算（学校運営費、指導充実費）
特別支援教育課	教育振興費	12,518,698	手話で学ぶ教育環境整備事業、早朝子ども教室、地域支援、就学奨励費、通学支援、学校運営協議会
	特別支援学校費	776,000	共生社会をめざす文化芸術・スポーツ活動推進事業
教育センター	事務局費	132,990	I C T環境整備（アプリ使用料）
	教育センター費	100,000	教職員研修旅費
県議会事務局	事務局費	3,115	高校生議会出席経費
合 計		50,610,216	

(4) 児童会・生徒会

児童会・生徒会

児童会・生徒会活動

児童、生徒一人一人が主役になれるように積極的に活動することを目指して取り組んだ。生徒会長と副会長を中心に運動会や学校祭のスローガンや生徒会企画について話し合いを行い、決定していった。

全校での活動としては、運動会、クリーンクリーン活動、とりろうピック、学校祭の一部を生徒会で企画運営を行った。運動会やとりろうピックでは、幼稚部、小学部、中学部、高等部が縦割りの班に分かれて活動した。異年齢との関わりを大切にして、思いやりや譲り合いの心を育てることを目的として活動をした。先輩が率先して手を取り優しく声をかけるなど思いやりを持ちながら活動することができた。学校祭では有志によるステージ発表を今年度も行った。普段見ることができない児童生徒の様子を見ることができ有意義な時間となった。

生徒会選挙では、中学部、高等部から立候補者を募った。今年度は高等部より2名立候補者が出て選出された。マナーアップ運動期間には児童生徒玄関であいさつ運動を行ったり行事でのあいさつや企画の説明をしたりするなど、様々な場で活躍した。

中学部では、保健委員会と図書委員会を月1回設定して活動に取り組んだ。保健委員会では、掲示物を作成して、風邪の予防などの情報発信を行った。図書委員会では、昼休みの図書当番やポップの作成、図書郵便の活動を通して本の魅力を伝えた。

各学部の行事や部活動の大会、コンテストがある中での生徒会活動のため、話し合いや準備の時間の確保が難しかった。見通しを持ちながら計画的に進めていくことが必要である。また、今後、生徒数が減少した際、運営や活動の方法を検討していく必要がある。

<縦割りでの活動の様子>



とりろうピック
「いきいきタイム」



クリーンクリーン活動



運動会
「あつまれ！チャレンジャー！」



学校祭 生徒会有志 「キラキラ☆ステージ」

(5) 部 活 動

陸上部

1 目標

基礎体力の向上と自己の記録更新を目指し、継続して練習に取り組む。

2 主な活動内容

今年度の陸上部員は、高等部男子4名、中学部女子1名の計5名で活動に取り組んだ。

基礎体力の向上と自己の記録更新を目標に基礎トレーニングやフォームの改善などを中心にして練習を行った。

3 受賞者

第61回全国聾学校陸上競技大会

第3位入賞 種目 男子5000m 高等部2年 堀江 蓮人

第3回中国地区ろう学校陸上競技記録会

第1位 種目 女子ソフトボール投げ 中学部2年 田中 優那

第2位 種目 女子50m 中学部2年 田中 優那

第2位 種目 男子800m 高等部2年 堀江 蓮人

第2位 種目 男子走幅跳 高等部2年 堀江 蓮人

4 成果と課題

今年度も昨年度同様にできるだけ生徒が部活動に参加できるように週3日活動日を設定し、生徒たちが多くの時間練習に取り組めるようにした。また、できるだけ担当職員を配置し、練習日を確保できるように努めた。練習では、主に体幹を鍛えることや基本的な動きを高めることを重視し、いろいろなトレーニング方法を取り入れながら練習を積み重ねた。

「全国聾学校陸上競技大会」や「第2回中国地区ろう学校陸上記録会」に陸上部の生徒全員が参加し、練習の成果を十分に発揮することができた。そして2名の生徒が4つの種目で入賞した。このような大きな大会や記録会に参加することで、他校の生徒の頑張る姿に目を向けたり、会場の雰囲気味わったりすることで、一人一人にとってよい経験となった。年々部員数が減少していく中、来年度の大会に向けて部員一人一人が新たな目標を設定し、日々の練習を頑張ってもらいたい。



頑張った！！：チーム鳥聾



表彰式：第1位 田中 優那さん

卓球部

1 目標

生徒の自主的・自発的な活動を通じて、規律ある行動や協調性を学び、継続した努力ができる態度を身につける。

2 主な活動内容

令和6年度の卓球部は9名（高等部 男子5名、中学部 男子3名、女子1名）で活動を行った。中国地区ろう学校体育大会、鳥取県高等学校総合体育大会や東部地区中学校総合体育大会などの大会に向け、一人一人が競技力の向上をめざして日々の活動に取り組んだ。

全国障がい者スポーツ大会県予選会への参加の他に、高等学校体育連盟や中学校体育連盟主催の大会にも久しぶりに参加した。6月に行われた東部地区中学校総合体育大会卓球競技では、大勢の選手の中で試合をするだけでなく、審判もおこない、体験の多い大会となった。緊張した中にも、他校の生徒に審判の進め方を教えてもらったり、試合の合間に学校生活のことを話したりする場面もあり、交流を深める良い機会となった。

7月には第74回中国地区ろう学校体育大会(岡山大会)卓球競技に参加した。個人戦は、竹村、瀧が3回戦まで進出した。男子団体戦は5チームによる総当たりのリーグ戦で4位となった。女子も陸上部所属の生徒とともに個人戦と団体戦に出場した。団体戦は4チーム総当たりによるリーグ戦で4位となり、個人戦は初戦敗退となった。

3 成果と課題

今年度は新入部員はおらず、昨年度から引き続いて活動に取り組んでいる生徒ばかりだったので、技術の向上が図れただけでなく、部員相互のコミュニケーションを取りながら活動ができた。また、練習内容に変化を持たせるように、マシンを使った練習や多球練習を取り入れ、生徒個々の課題に沿った練習に取り組むことができた。

部長が練習の流れを皆に伝えたり、タイマーのセットなど時間管理も率先して行動したりする姿を他の部員に見せることで、部活動が引き締まるような雰囲気づくりができた。

来年度も様々な大会に積極的に参加し、試合経験を積むことができるようにしていきたい。



写真部

1 目標

生徒の自主的・自発的な活動を通じて、規律ある行動や協調性を学び、継続した努力をしようとする態度を身につける。

2 主な活動内容

(1) 部員

高等部 瀧 雄太(高3) 菱川 玲(高3) 福本 匠(高2) 藤田陽瑠(高2) 堀江蓮人(高2)
中学部 谷口悠真(中3) 板倉晃大(中2) 田中優那(中2)

(2) 活動内容

5月 8日 第28回春の作品発表会(湯梨浜町中央公民館、燕趙園) ※高等部5名参加
8月 5日 生徒写真技術研修会(湊山公園周辺、鳥取県立米子西高等学校) ※高等部2名参加
10月23日 第33回鳥取県高等学校写真展(米子コンベンションセンター、植田写真美術館)
※修学旅行のため不参加

(3) コンテスト結果(2024年1月~12月)

福本 匠

・第44回 近畿高等学校総合文化祭 11月 奨励賞 「 記憶 」

藤田 陽瑠

・第46回 よみうり写真大賞 12月 入 選 「 見つめるこの先 」

谷口 悠真

・月刊キャパ 月例フォトコンテスト 3月 入 選 「 青春 」

板倉 晃大

・第22回 鳥取県ジュニア県展 11月 奨励賞 「 木漏れ日 」

・第68回 全国学芸サイエンスコンクール 12月 銅 賞 「 夕日の木 」

田中 優那

・月刊キャパ 月例フォトコンテスト 1月 入 選 「 男の会話 」

・第30回 全国特別支援学校文化祭 1月 優秀賞 「 休み時間 」

・第22回 鳥取県ジュニア県展 11月 入 選 「 夏の思い出 」

・第68回 全国学芸サイエンスコンクール 12月 金 賞 「 水の世界 」

(4) 写真展

6月 鳥取県立人権広場ふらっとにて、写真展 8点

9月 米子コンベンションホール(第11回手話パフォーマンス甲子園)にて、写真展 10点

2月 中電ふれあいホールにて、2024年鳥取聾学校写真部生徒写真展 32点

3 成果と課題

本年度は、若桜祭りの撮影に行くなど、校外での撮影を少し増やした。撮影の際、被写体になる方に自分から「撮影しても良いですか」と声を掛けたりするなど、コミュニケーション面の成長が見られた。そして、全国規模のコンテストでは最高賞を受賞する嬉しい結果があった。昨年同様、作品作りに使用するパソコンの台数に限りがあるが、試行錯誤しながら、楽しい写真活動を目指したい。

茶道部

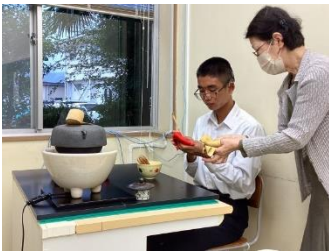
1 目標

規律ある行動や協調性を学び、継続して努力する態度を身につける。

茶道のお点前の練習を通して日本文化に親しみ、おもてなしの心や礼儀作法を身につける。

2 主な活動内容

毎週火曜日に、山内先生の御指導の下、薄茶の点前、道具の置き合わせ等の稽古を行っている。



本年度部員は3人(高等部2人、中学部1人)である。例年、普通の置き合わせの稽古で終わるが、今年度は、立礼(りゅうれい)という、椅子に座って行うお点前の方法、重ね茶碗、拝見など、一歩進んだお点前の方法を指導していただいた。2学期以降は、2人が進路に向けて引退し、活動は1人になったが、充実した稽古ができた。



(1) 部活動体験

令和6年11月18日(月)～20日(水)に、第2回学校公開があり、19日の部活動を部員以外の方々に体験していただく機会を持った。



小学部の児童やその保護者の他、本校に関係の深い方々がきてくださり、生徒は落ち着いてお点前を披露した。その後、小学部の児童がお茶を点てる体験をした。



(2) 初釜

1月22日(水)、遠藤記念日に初釜を行った。3・4校時という短い時間帯だったため幼児、児童、生徒が主体で全職員のお茶をふるまうことはできなかったが、日ごろの練習の成果を披露できた。



3 成果と課題

今年度は、少人数であったが、一人一人に応じた活動ができ、とても充実していた。3人の生徒には、3年間、6年間の活動をたたえ、小堀遠州流茶道の認定証が与えられた。部員が全員卒業するので、来年度は新入部員の勧誘をすることが課題である。

3 ひまわり分校の取り組み

(1) 年 間 行 事

令和6年度 年間行事計画

鳥取聾学校ひまわり分校

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月			
1	月	職員会議・学部会 企画会議	↑	水 教育推進部会	土		月	振替休業日(6/29)	木	職員健康診断・教育推進部会	日		火		金	米子高校手話言語生 徒来校	日		水	↑	土		土		1		
2	火	職員会議・学部会 教育推進部会	木	企画会議 心電図検査(小1)	日		火	玉川ST来校 教育推進部会	金	中国オージオロジー・夏季 研修(山口)・職員作業	月	SC来校 いじめ防止対策委員 会	水	教育推進部会	土		月	SC来校 いじめ防止対策委員 会	木	↓	日		日		2		
3	水	運営会議・危機管理研修 聴覚障がい基礎研修	金	憲法記念日	月	SC、SSW来校 いじめ防止対策委員 会	水	環境整備	土		火		木	企画会議	日	文化の日	火		金	↑	月	三地区通級担当者及び LD等専門員研修会	月	↑	3		
4	木	学部会	↓	土	みどりの日	火	洪水対応避難訓練 教育推進部会	木	企画会議・運営会議	日		水	教育推進部会	金	就労フェスタ(県米)	月	振替休日	水	教育推進部会	土	↓	火		火	運営会議	4	
5	金	学部会・企画会議 聴覚障がい基礎研修	日	日	こどもの日	水	救急救命講習	金		月		木	企画会議	土		火	教育推進部会 サッカー教室	木		日		水	教育推進部会	水		5	
6	土		月	振替休日	木	企画会議	土		火	わくわく交流会 運営会議	金		日		水	運営会議	金		月		木	企画会議 中ろう研第2回代議員会	木	企画会議 入学候補者募集検査	6		
7	日		火	運営会議	↑	金	学校運営協議会	日		水		土		月	SC来校 手話研修会	木	環境整備	土		火	(本校3学期始業式)	金	中ろう研第2回代議員会	金	↓	7	
8	月	教育推進部会 聴覚障がい基礎研修	水	火災対応避難訓練	土		月	SC来校・手話研修会	木		日		火	企画会議・運営会議	金		日		水	教育推進部会・企画会議 環境整備・自主研修	↓	土		土		8	
9	火	(本校着・始・入)	木	企画会議・SSW来校 中ろう研第1回代議員会	日		火		金		月	手話研修会	水	和太鼓演奏指導	土		月	手話学習会	↑	木	3学期始業式 運営会議	日		日		9	
10	水	着任式・始業式	金	中ろう研第1回代議員会 耳鼻科検診	月	手話研修会	水	職員会議	土		火	ひまわりタイム 運営会議	木	SSW来校 ちょこっと 情報交換会	日		火	計画訪問 ひまわり タイム 運営会議	↓	金		月	体験的学習活動等 休業日	月		10	
11	木	入学式 職員会議	土		火	歯科検診 運営会議	木	企画会議	日	山の日	水	サッカー教室 環境整備	金	健康教育参観日	月		水		土		火	建国記念の日	火	修了証書授与式予行 練習	11		
12	金	三施設連絡会 運営会議	日		水		金	全体研究会	↓	月	振替休日	木	企画会議	土	(本校学校祭) 手話検定4・5級	火	校外保育(幼)	木	書道教室 米子高校初任者来校	↓	日		水	運営会議	水	職員会議	12
13	土		月	SSW来校	↓	木	校内教育支援委員会	土		火		金		日	手話検定2・3級	水		金	エキスパート教員公 開授業	↓	月	成人の日	木	企画会議	木	企画会議	13
14	日		火	玉川ST来校	金	仲間づくり交流会(小)	日		水		土		月	スポーツの日	木	職員会議・企画会議 SSW来校	土		火		金		金			14	
15	月		水	職員会議 親子遠足(幼)	土		月	海の日	木		日		火	ひまわりタイム	金	皆生養との交流 (幼)	日		水		土		土			15	
16	火	健康診断 研究推進委員会	木	企画会議	日		火	計画訪問 ひまわりタイム	金		月	敬老の日	水	職員会議	土		月		木	企画会議	日		日			16	
17	水	職員会議 交通安全教室	金		月	運動会全体練習	水	和太鼓演奏指導	土		火	サッカー教室	木	企画会議	日		火	良善幼稚園と交流 書道教室	金		月	SC来校 いじめ防止対策委員 会	月	入学候補者者発表	17		
18	木	企画会議	土		火		木	SSW来校・企画会議	日		水	宿泊体験学習(小 5)	金	30周年記念式典&ひま わり発表会予行練習	月		水	職員会議	土	中ろオーディオロ ジー冬季研修	火		火	修了証書授与式	18		
19	金	全校遠足	日		水	職員会議	金		月		木	宿泊体験学習(小 5) SSW来校・企画会議	土		火		木	書道教室	日		水	職員会議	水	運営会議	19		
20	土		月	手話研修会	木	企画会議 職員研修	土		火		金	職員会議	日		水		金		月	SC来校	木	企画会議	木	春分の日	20		
21	日		火	ひまわりタイム	金	中四教頭会(山口)	日		水		土		月		木	中ろう研幼稚部教育 サークル研	土		火	冬の遠足、スキー教 室(幼、小5)	金		金			21	
22	月	内科検診・いじめ防止対策委員会 SC、SSW来校	水	職員研修	土		月		木		日	秋分の日 手話パフォーマンス甲子園(米子)	火		金	中ろう研幼稚部教育 サークル研	日		水	職員会議	土		土			22	
23	火	聴覚障がい基礎研 修	木	企画会議 ちょこっと情報交換 会	日		火	1学期終業式 (本校終業式)	金	職員会議 SSW来校 ICT研 校内教育支援委員会 企画会議	月	振替休日	水	職員研修 和太鼓演奏指導	土	勤労感謝の日	月		木	企画会議	日	天皇誕生日	日			23	
24	水	職員研修	金	眼科検診	月		水	手話研修会・ICT研 修	土		火	サッカー教室 手話研修会	木	企画会議	日		火	2学期終業式 県外出張報告会	金		月	振替休日	月	修了式・離任式 (本校修了式)	24		
25	木	企画会議	土	(本校運動会)	火		木	全国教頭会(札幌)	日		水	和太鼓演奏指導 職員研修	金		月		水	↑	土		火	ひまわりタイム 反省職員会	火	年度末職員作業	↑	25	
26	金	(本校参観日)	日		水	運動会予行練習	金	全国教頭会(札幌)聴 障がいにかかわる情報 機会	↓	月	(本校2学期始業式) 手話研修会・ICT研修	木	企画会議	土	30周年記念式典&ひ まわり発表会	火	ひまわりタイム	木	↓	日		水	研究報告会	水	送別会	26	
27	土	参観日・PTA総会	月		木	ちょこっと情報交換 会	土		火		金		日		水	保健師との研修会	金		↓	月	照度・空気検査	木	企画会議	木		↑	27
28	日		火	福祉セミナー 聴覚 障がい基礎研修	金		日		水	2学期始業式	土		月	振替休業日(10/26)	木		土		火	ひまわりタイム	金	教育推進部会(3月 度)	金			↓	28
29	月	昭和の日	水	玉川ST来校	土	運動会	月	ダニアレルゲン検査	木		日		火		金	三施設合同避難訓 練&引き渡し訓練	日		水	職員研修			土			↓	29
30	火	振替休業日(4/27)	木	企画会議	日		火	不審者対応訓練 ICT研修会	金		月		水	手話学習会	土		月		木	企画会議			日			↓	30
31			金			水			土				木				火		金	PTA研修会 人権教育参観日			月			↓	31
授 給		14(新入生13) 11(新入生10)		21 21		21 20		15 15		3 3		19 19		23 22		20 20		17 17		16 16		17 17		15(修了生12) 12(10)	授 給		
そ の 他		交通安全教室 三者連絡会 内科検診等		火災対応避難訓練		仲間づくり交流会(小) 運動会予行練習 洪水対応避難訓練		計画訪問(1回目)		PTA専門部会 人権教育講演会 不審者対応避難訓練				健康教育参観日 学校公開2回目		※三施設合同避難訓練 親子遠足(幼)		計画訪問(2回目) 芸術鑑賞教室		PTA専門部会 人権教育参観日 スキー(小5)		修了・進級認定会議 学校保健委員会 反省職員会		入学候補者検査 修了証書授与式			

※1学期71(70)

※2学期82

3学期48(45)

職員	幼稚部	小学部	各学部	（鳥取県立特別支援学校学則）	総授業日数201日 （新入生200日・修了生198） 給食回数 193 回
安全点検の日	毎月1日	交流及び共同学習	身体測定	学年始 4／1～4／8	
教育推進部会	第1水曜日	・交流保育(原則木曜日)	個人懇談	学期末	
環境整備の日	第2水曜日	・学校間交流	学部会	夏季＋冬季＋体験的学習活動等休業日 ＝55日以内(土日含む)	
職員会議	第3水曜日	良善幼稚園	幼小	学年末 3／25～3／31	
職員研修	第4水曜日	皆生養護学校	小	※夏季休業39	
企画部会	毎週木曜日	東保育園	保護者手話学習会	※冬季休業16	
運営会議	第1or第2火曜日	すみれこども園	補聴器店来校		
衛生委員会	第1火曜日	どんぐりこども園			
		・学校間交流			
			名和小学校		
			住吉小学校		
			福米西小学校		
			加茂小学校		
			福生西小学校		

<夏季休業35日>

<冬季休業15日>

<体験的学習活動等休業日1日>

計51日

(2) 各 分 掌

総務部

1 目標

学校内外の広報活動を推進し、本校の教育の理解と啓発を図る。

2 主な活動内容

(1) 学校公開

年2回（5月・10月に計5日間）の学校公開では、保護者はもとより幼児児童が利用する福祉施設や教育関係機関、地域の方々、授業の一環で来校した高校生など、たくさんの方々にひまわり分校の教育実践を参観いただいた。また公開期間中に実施した学校説明会や講演会、難聴疑似体験や手話学習会への参加者も増え、聴覚障がい教育の理解と啓発につながるよい機会となった。

(2) 広報・啓発活動

各種刊行物や催し案内などを定期的に職員に回覧したり、手話ポスターやイベントポスター、各種行事での幼児児童の写真などを掲示したりした。また、地域の公民館祭に幼児児童の作品を展示させてもらい、広くひまわり分校のことを知っていただくよい機会となった。

(3) とりろうだより・ぶんこうだよりの発行

「とりろうだより」は、鳥聾本校と連携しながら、学期ごとの行事や各学部の活動の様子を掲載して年3回発行した。保護者や関係諸機関に配布し、子どもたちの姿や聴覚障がい教育についてお知らせすることができた。また、「ぶんこうだより」を毎月発行して、各学部の様子や活躍を保護者に知らせるようにした。ホームページにも掲載し、外部への情報発信に努めた。

(4) コミュニティ・スクール

今年度は年3回（6月・12月・2月）の学校運営協議会を実施した。子どもたちの様子や校内の施設見学後、協議や意見交換の中で、多くの提言をいただくことができた。

＜地域と連携した主な取組＞

- ・早朝子ども教室での指導員や、幼稚部ひまわりタイムへのゲストティーチャー
- ・地域の公民館祭への作品出展
- ・交流及び共同学習（園・学校間交流、居住地校交流） 等

(5) 危機管理等関連業務

校内運営において危機管理等に関する業務を行った。安心安全な学校運営をめざし、校内のみならず、関係機関と連携を図りながら進めた。

＜主な活動内容＞

- ・年度当初の防災計画策定や健康安全教育部と連携を図りながら各種避難訓練や研修の実施。
- ・近隣施設との連携―隣接する皆生養護学校、総合療育センターとの三施設連絡会や、地震・津波を想定した合同避難訓練の実施。 等

3 成果と課題

各学部や教育推進部と協力しながら、「ひまわり分校の魅力」を地域へ発信することに努めた。地域や関係機関の方々にさらに伝わっていくように、ホームページ等に活動のねらいを含めた魅力的な記事をタイムリーに掲載していくことに努めていきたい。

また、学校運営協議会を通して、地域とともにある学校をめざし、地域や福祉、医療や教育など、関係機関と連携を図り、取組を進めていきたい。

教務部

1 目標

- (1) 各教科・各学部間の連絡調整を行い、学習活動や行事・儀式等が円滑に行えるようにする。
- (2) 各表簿や個別の指導計画等の適切な運用と管理を行う。

2 主な活動内容

(1) 各表簿

出席簿・指導要録・通知表の作成を依頼し、点検及び管理を行った。

(2) 教育課程

学習指導要領を考慮した教育課程の編成を各学部で検討し、来年度の教育課程を決定した。

(3) 行事予定

年間・月間の行事予定を作成して周知を図るとともに、日々の予定をホワイトボードで連絡した。

(4) 教科用図書

今年度受領した児童用教科書の配布及び受領報告、来年度使用予定の児童用教科書及び教師用教科書・指導書の申請と管理を行った。

(5) 個別の指導計画

学習指導要領に合った指導計画となるよう様式の検討を行いながら、評価の点検を行った。

(6) 子どもを語る会

全校の幼児児童、教育相談乳幼児の共通理解を図る会を、4月中旬に開催した。

(7) 職員会議

職員会議の事務と運営、司会・記録の割振り、手話通訳者への資料事前送付等を行った。

(8) センター研修

教育センター主催の基本研修・職務研修・専門研修の取りまとめを行い、受講手続きや受講者への連絡を行った。

(9) 職員手話研修会

全国手話検定試験に向けて、教職員の手話研修会を計画・実施した。鳥取県聴覚障害者協会から2名と本校職員4名が講師を務め、年間8回の研修会を行った。

(10) 施設利用調整（皆生養護学校）

皆生養護学校の体育館使用について、教務主任同士で連絡を取り、日程調整を行った。

(11) 入学者募集及び選抜

来年度の幼稚部入学者募集に関して入学者募集委員会を開催した。来年度入学予定者がなく、計画及び準備のみを行い、今後入学予定者がある場合に備えた。

(12) 儀式

始業式、終業式、入学式、修了証書授与式について計画立案し、進行した。

3 成果と課題

成果としては、見通しを持ちながら、準備、連絡調整等を行うことで、学校行事や学習・保育活動等が円滑に進められたことである。ただし、学校行事を含む学習・保育活動等の内容の精選、個人ファイル、共有用フォルダの整理の不十分さが課題となっている。今後も、幼児・児童の学びや体験の充実に向けて、更なる検討と工夫を進めていきたい。

キャリア教育部

1 目標

- (1) 自己及び他者への関心を深め、コミュニケーション能力を高める。
- (2) 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度を形成する。
- (3) 社会参加に必要な知識、技能、態度を身につける。
- (4) 自分の将来の姿をイメージしながら進路についての考えを深め、選択する力を身につける。

2 主な活動内容

(1) キャリア教育

①校内掲示

幼児・児童も関心をもち、注目するように掲示を工夫した。

②キャリア教育だより（4、7、11、3月発行）

7月には小学部児童対象のたよりを発行した。

③キャリア発達段階表

目標・内容、評価欄の検討が必要であることがわかり、来年度検討する。

④ケース会議

夏休みに各学部で実施。キャリア発達段階表をもとに幼児・児童の様子を話し合った。

⑤令和6年度鳥取県西部地区特別支援学校就労促進セミナー「就労フェスタ～共にはたらこう～」

10月4日（金）に米子養護学校で行われた。

小学部7名全員が参加し、聾学校やきこえのこと、手話について紹介をした。児童は、自分の役割を果たし、自信をつけることができた。

⑥ふるさとキャリアパスポート

行事や毎学期の振り返りに活用した。



校内掲示：きこえない・きこえにくい方の仕事について



(2) いじめ防止についての取組

①いじめ防止対策委員会

4、7、9、12、2月に実施した。

②いじめ防止アンケート

6、9、11、1月に、小学部児童対象で行い、児童の生活の様子を把握するのに役立てた。

③SC、SSWとの連携

いじめ防止対策委員会への参加。必要に応じてケース会議を行った。

(3) 個別の教育支援計画

①保護者アンケート

1月に実施し、本人及び保護者のニーズを把握した。

就労フェスタへの参加

3 成果と課題

今年度は小学部児童を中心に、キャリア教育に興味・関心をもち、目標を達成できるように取り組んだ。特に、就労フェスタへの参加により、自己及び他者への関心を少しずつ高めたり、それぞれの目標に向かって努力したりする様子が見られるようになった。課題としては、教職員のキャリア教育の理解を深めることがあがった。来年度は、卒業生の進路や就労についての研修を計画していきたい。

教育研究部・自立活動部

1 目標

- (1) 幼児児童の豊かな心情とたくましく生きる力を育てるために、教員の指導力の向上を図る。
- (2) 聴覚障がい教育を中心とする特別支援教育の専門性を高める。

2 主な活動の内容

(1) 教育研究・研修企画・推進

今年度は、昨年度から引き続き「豊かな心情を育み、たくましく主体的に生きる子どもを育てる～自ら伝えたい気持ちとことばを育てる環境づくり～」をテーマに研究を行った。幼児児童一人一人の障がいの特性と発達の状況からくる困難さを整理し、適切な目標設定と自立活動を基盤とした保育活動や各教科等での横断的な指導を行うことで、幼児児童の「もっと知りたい。」「もっと伝えたい。」という意欲が高まり、調和的発達をより促すことができるであろうと考え、各学部で研究を進めた。また、「思考をくすぐる6つの活動」を取り入れた授業づくり、年2回の参観ウィーク、一人1研究授業等の授業実践を計画的に行い、学部を越えて幼児児童理解を深めながら、自立活動を基盤においた授業づくりについて研究を進めた。今年度は11月に中国地区ろう教育研究会幼稚部教育サークルを開催し、庄司和史先生に研究会の指導・助言、講演をいただいた。また、基礎的環境整備の一つとして、職員の指導力向上のために、鳥豊スタンダード・ひまわりスタンダードの定期チェック(学期に1回)や、職員朝礼での「毎朝ワンポイント手話」を実施した。

(2) 研究会紹介・研究資料収集

他校での研修会、資料の紹介、季刊誌「聴覚障害」のとりまとめを行った。

(3) 聴能

幼児児童の補聴器や人工内耳の管理、情報提供、聴力測定の実施、補聴器店との連携を行った。また、奇数月に聴能通信「みみだより」を発行し、校内外へ聴能に関する情報を発信した。

(4) 自立活動

幼児児童一人一人について、自立活動指導プログラムを用いて、指導内容の達成状況をチェックすることで、個の強みや課題について把握し、適切な目標設定をすることができた。学部内で、幼児児童について共通理解できる機会を持ち、一貫性のある指導に活かすことができた。

(5) 発達・心理検査

各学部で実施する検査を一覧にまとめ、実施時期、検査内容について精査し、実態に応じて実施の手続きを行った。発音明瞭度検査については夏季休業中にグループごとに評価を行い、2学期以降の発音指導に活かした。

3 成果と課題

今年度は伝えたい気持ちを育てるためのことばやコミュニケーションに焦点を置き、授業研究会、学部会や日々の話し合いの中で、指導・支援のあり方について研究を深めた。各学部の取組により、幼児児童一人一人が自分の思いを生き生きと表現する姿が見られるようになってきている。特に、中国地区ろう教育研究会幼稚部教育サークルでは、中国地区の聾学校9校で「伝えあいを楽しみ、ことばを育む実践」について研鑽を深めることができた。また、一人1研究授業や参観ウィーク、「鳥豊スタンダード」・「ひまわりスタンダード」の活用等により、職員一人一人が授業改善や環境整備に取り組み、指導力の向上につなげることができた。今後も、幼児児童のことばやコミュニケーションの向上を図ることができるよう、実践を積み重ねていきたい。

健康安全教育部

1 目標

- (1) 健康保持、安全、防災に関する知識を身につけ、健康的で安全な生活を送るために必要なことが、自分なりにできる。(知識・技能)
- (2) 健康的で安全な生活を送るために必要なことに気づき、自分はどうすればよいかを考え、まわりの人とコミュニケーションを取りながら実践できる。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 学んだことをいかし、まわりの人と一緒に、より健康で安全な生活を送るために持続的に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

2 主な活動内容

(1) 健康教育

①健康教育参観日(10月11日)

健康に関する理解を深め、家庭への啓発を図ることをねらいとして参観日を開催した。

②すっきりモーニング大作戦(7月3日～10日、1月15日～1月24日)

家庭内での生活リズムや歯磨き等への意欲、関心を高めることができた。

(2) 安全教育

①交通安全教室

各学部に分かれ、安全な道路の歩き方について、学校周辺の道路を使って指導を行った。

②安全点検

毎月1日を安全点検日とし、職員が各管理場所を点検した。

(3) 給食指導

①給食試食会(今年度は家庭数に変化がなかったため実施なし)

②学校給食週間の取り組み

食育の指導として、1月24日から1月30日まで「学校給食週間の取り組み」を行った。

(4) 防災関係

①備蓄の整理、確認

災害時の避難対応のため食料等の校内備蓄、保管をしている。

②避難訓練

ア 火災避難訓練(5月8日)

イ 洪水避難訓練(6月4日)

ウ 不審者対応避難訓練(7月30日)

エ 三施設合同避難訓練(11月29日)

(5) 環境整備

○隔月第2水曜日午後4時から30分間、各部で行う環境整備の計画、分担を行った。

(6) その他

○学校保健委員会

3 成果と課題

危機管理や防災対策について、訓練等を通して見直しを図ってきた。避難訓練や外部専門家を招いた指導講評等を通して、職員の防災や安全に対する意識も高まったと感じている。引き続き、有事の際によりスムーズな対応ができるよう、防災計画や避難訓練計画案を作成していきたい。

(3) 各 学 部

幼稚園

～にこにこ・のびのび・わくわく～

1 めざす子ども像

- 自分の考えや気持ちをことばにして伝える子
- 自分でできることが増え、友達のために動く子
- 運動やリズム遊びで、楽しんで体を動かす子

2 主な活動内容

(1) 学び合う子プロジェクト

幼児の伝えたい気持ちが高まってきており、今年度は、特に友達同士でのやりとりを増やしていきたいと考え、話し合い活動に力を入れて取り組んだ。週2回(月・金)の各40分間、「おはなしタイム」を設定した。月曜日には週の予定と週末にかいてきた絵日記の話題を中心に、金曜日には、併行通園での活動、自分が見たテレビ番組等、伝えたい話題を中心に幼児が自分で話題を決めて話している。最初は自分が話したい気持ちが強く、友達の話に興味を持ちにくい様子も見られた。しかし、イメージを共有化するための画像や絵辞典等の視覚的支援や再現あそび、共感する声かけ等の支援を工夫した結果、友達の話に興味関心を持ったり質問したりするやりとりが活発になってきた。

また、単語だけの表現に終わりがちな様子が見られるため、「文で話す力の育成」を重点に取り組んだ。写真日記では、教員と1対1で一日の活動の振り返りを文で表してから友達に発表し、文で話すことを積み重ねた。様々な体験活動の後には、個別の自立活動で、新しいことばや体験を振り返って言語化した文を確認することで、文で話す力の育成に努めた。このようなやりとりを重ねる中で、単語だけで終わらず、自分の知っていることばでつなげながら文で話す様子が見られるようになってきた。

(2) かなえる子プロジェクト

自己を認識し、自分のことを友達に伝えられるよう、自分のきこえについて理解を進める活動を設定して取り組んだ。併行通園先の園では、紙芝居を使って自分のきこえについて友達に知ってほしいことを伝えた。また、学校間交流では、学校見学の際、良善幼稚園の友達を案内してひまわり分校の紹介をしたり、自分のきこえについて友達にお願いしたいことを伝えたりする事ができた。

また、毎日、絵本の時間を設定し、絵本の読みきかせを行っている。週に2日、図書館司書が入ったり、年齢に応じたグループに分けたりしながら、毎日、続けてきた。季節に合った絵本、昔話の絵本など様々なジャンルの絵本を選び、絵本の世界に親しんでいる。絵本の読みきかせで読んだ絵本を借りる幼児も見られ、絵本に関する興味・関心は高まっている。

きこえない成人の方を講師に迎え、絵本の読みきかせと交流活動を行う「ひまわりタイム」を年に8回実施した。絵本の読みきかせでは、豊かな手話表現と表情で幼児が絵本の世界に引き込まれ、絵本を楽しんだ。ボッチャやバグゴ、かるた等のゲームをしたり、パラリンピックやデフリンピックの話をきいたりして、きこえない成人の方との関わり



を楽しむ様子が見られた。

多人数の集団やきこえる園児との関わりを通して、社会性やコミュニケーションを図ろうとする力の育成を目的として、学校間交流と居住地園交流を行っている。学校間交流では、皆生養護学校幼稚部、良善幼稚園と交流を行った。始めは緊張する様子が見られたが、時間が経つうちに笑顔が見られるようになった。幼児全員が居住地園などにも籍がある併行通園を行い、幼児の実態に応じて回数等を調整しながら、保育園やこども園に通った。回数を重ねるごとに友達に声をかけて遊んだり、活動に積極的に参加したりする様子が見られるようになった。



(3) やりぬく子プロジェクト

柔らかさや大きさ等を考慮し、幼児の扱いやすいボールを購入し、投げる・受ける・つく等様々な動きにスモールステップで取り組んだ。鳥取県サッカー協会から寄贈していただいたマイサッカーボールやどっしりとした大きなサッカーゴールを設置したことで、運動の時間だけでなく自由あそびの時にも、幼児が進んでボールを手にとって、投げたり、蹴ったり試合をしたりして楽しむ様子が多く見られた。おはようタイムで実施しているリズム遊びでは、様々な動きができるように定期的に動きを変えて取り組んだ。様々な動きを取り入れた運動を継続していくことで、体の使い方が徐々に上手になってきている。運動では、サーキット、縄跳び、ボール運動など幅広い内容をスモールステップで取り組んだ。できるようになっていく喜びを感じながら、子どもたちはしっかり体を動かしていた。



(4) オリジナルプロジェクト

友達同士の関わりややりとりを活発にするために、幼児の主体性を大事にした活動に取り組んだ。「こいのぼり」の制作では、色や道具を幼児全員で相談して決め、楽しみながらダイナミックなこいのぼりをつくることができた。梅雨時のあそび「みんなでやってみよう」では、ジャンボシャボン玉や色水遊び、砂浜での砂遊び等、幼児のやりたい気持ちを大切にしながら活動に取り組んだ。自分のやりたい気持ちを通すのではなく、友達を誘って断られたり友達との折り合いをつけたりすることも重ね、友達との関係を深めることができた。



3 成果と課題

今年度の幼稚部は、4歳児2名、5歳児2名の計4名で活動し、個々の発達段階に合わせた指導・支援を幼稚部全体で共通理解を図りながら進めてきた。「おはなしタイム」の取組では、友達の話に興味関心を持ったり質問したりするやりとりが活発になり、話し合い活動を楽しむ姿が見られた。写真日記や自立活動で、経験の言語化をより深めるための時間を確保し、幼児の発言を文章にする活動を進めてきた。その結果、幼児の伝えたい気持ちが高まり、相手に内容が伝わるようになり、やりとりの内容も深まった。また、様々な場面で幼児同士がやりとりをしながら遊ぶ姿がよく見られるようになった。獲得語彙数も増えてきており、様々な場面で幼児同士がお互いを認め、伝え合いながら元気に遊んでいる。来年度は、在籍幼児数が減る予定である。活動内容の精選や活動方法の工夫を行っていくとともに、教室環境の整備や工夫、絵本に親しむ活動や体験をもとにした遊びの充実を図り、幼児の思考力や表現力を高める活動をより一層充実させていきたい。

小学部

～みんなで チャレンジ！ やってみよう！～

1 めざす子ども像

- 学び合う子…めあてを意識して学習に取り組む子
- かなえる子…任された係や当番をやりとげて、はたらく子
- やりぬく子…体力づくりで、楽しんで体を動かす子



2 主な活動内容

(1) 学び合う子プロジェクト

①板書の工夫、電子黒板の活用、学びの足跡としての教室掲示等の視覚的な支援

児童の実態や学習の在り方に応じて、めあての提示、話型の活用、めあてを意識した振り返りなどを工夫した授業を進めるとともに、教員同士で連携を取り、児童にとってよりわかりやすい学習になるようにした。児童の学ぶ意欲が向上し、「わかった・できた・たのしかった」と振り返る場面が増えてきた。ICT 機器を積極的に使用した授業を行ったり、板書や教室掲示等を工夫したことによって、児童が興味関心を持ち、学習の充実を向上させることができた。



②観察や諸検査等を活用した的確な実態把握

個別の教育支援計画やキャリア教育段階表等をもとに、学部全体で一人一人の実態把握を行った。毎週の学部会で児童の様子や保護者からの情報等を共通理解し、学部全体で児童の指導にあたっている。また、聴力測定、発音明瞭度検査、J.coss 日本語文法検査、絵画語彙発達検査なども行い、実態把握と学習指導に活かしている。



(2) かなえる子プロジェクト

①よいところについて教師の意図的な紹介と児童が見つけ伝え合う場の設定

学期ごとのめあてや振り返りを全員の前で発表する場を設定し、お互いのよかったことやがんばったことに気付けるようにした。また、行事や学習についてもお互いの思いを伝え合い、それぞれのよさを感じられるように取り組んだ。

②児童それぞれの役割の設定、係・当番活動の様子等の掲示

児童の当番活動として、メダカのえさやり当番、小学生新聞の掲示当番を設定した。児童それぞれが自分の役割に責任を持って取り組むことができた。



(3) やりぬく子プロジェクト

○体力づくりの時間の確保、バリエーションの工夫

毎週月曜日と水曜日の昼休憩後の10分間、体力づくりを行っている。ラジオ体操やダンス、なわとび、ストレッチなど、月ごとに継続して行うことで、身体の動かし方や使い方に向上が見られる。休憩時間には、サッカーや鬼ごっこ、ブランコなど様々な遊びを楽しみ、意欲的に運動している様子が見られた。



(4) オリジナルプロジェクト

○読書・読みきかせの時間の確保

各学年、週に1時間「図書の時間」を設け、読書や読みきかせを行っている。図書館司書が物語の本を継続して読みきかせていくことで、イメージを膨らませながら楽しんで本の世界に入っていく児童の姿が見られた。自分の好きな本を読んだり、本の内容について教員と語り合ったりする様子から、学校図書館が児童にとって豊かな心を育む場となっていることを感じる。



3 成果と課題

今年度の小学部は、1年生2名、2年生1名、3年生2名、5年生2名の計7名の在籍だった。

10月には、ひまわり分校30周年記念式典があり、小学部の児童たちは、ひまわり分校の中心となって練習を重ね、本番ではたくさんのお客さんの前で演技をすることができた。その他、運動会やひまわり発表会などの全校での行事、書道教室やマラソン大会など学部内での取り組み、そして日々の学習と、さまざまな活動に取り組んできた。一つ一つの活動が児童に自信と達成感をもたらし、心と身体の成長につながっている。

今後も児童の安心・安全に留意しながら、実態把握を充実させ、教員同士の共通理解や連携をしつかりと図りながら、児童たちの着実な成長を見守っていきたい。



支援部

～つながる・ひろがる関係づくり～

1 めざすセンター的機能

- (1) 乳幼児教育相談 親子のかかわりを支援し、家庭と連携してきこえとことばの育ちを促す。
- (2) 通級指導・教育相談 地域で学ぶ子ども達が自己理解や自己認識を高め、活動に達成感を持てるような指導や支援を行う。
- (3) 関係機関との連携 担任や保護者のニーズに合わせて、情報提供し支援を行う。また、関係機関と連携を取り、情報交換や啓発を行う。

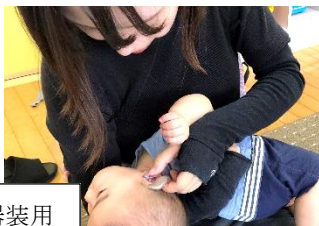
2 主な活動内容（令和7年1月現在）

(1) 乳幼児教育相談 乳幼児教室ひよこぐみ（活動回数 1～4回／月）

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
人数	2名	0名	2名	1名	1名	1名	7名

活動内容の様子

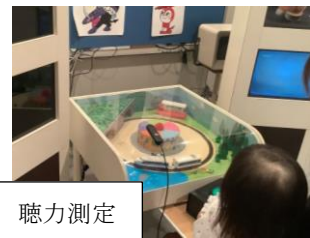
《きこえ・補聴器について》



補聴器装着



補聴器点検



聴力測定

《音あそび》



《息舌声あそび》



《写真日記》



(2) 通級による指導 ※すべて巡回、必要に応じて指導時の参観や懇談を設定した。

	巡回	市町村名（学年）
きこえ	1名	日吉津村1名（3）
ことば	7名	大山町3名（1）
		伯耆町3名（1、2）
		南部町1名（1）
合計	8名	

(3) 教育相談 きこえ：月1回から不定期 ことば：1～2回／月から不定期

○きこえ・・・医療機関から紹介および保護者、園、学校、保健師より相談依頼

○ことば・・・発音不明瞭・ことばの発達 保護者、園、学校、保健師より相談依頼

	3歳	5歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
きこえ			2名	1名			1名	3名	2名	1名	1名	11名
ことば	2名	1名	10名	1名	1名	1名						16名

(4) 関係機関との連携

①他機関との連携

- 医師（耳鼻科）・言語聴覚士、県西部市町村の保健師・障がい福祉課、教育委員会、総合療育センター、補聴器店等と直接あるいは電話やメールにて情報共有
- 通級担当者会 西部地区1回／月 3地区（米子市以外）1回／月
- 島根・鳥取聾学校、鳥取大学医学部付属病院、サポートセンター「きき」との勉強会
6月、11月、2月
- 西部地区小・中学校難聴特別支援学級担任の情報交換会 7月26日実施
ちょこっと情報交換会（1時間程度・オンライン） 5月、6月、10月、12月、2月
- 難聴幼児児童生徒理解の職員研修（保育園2件、小2件、中1件）
- 難聴理解の児童研修（小1件）
- 西部地区特別支援教育連絡会（年3回）特別支援学校コーディネーター及びLD等専門員との情報交換会

②本校との連携

- 難聴児の早期支援に関わる情報交換会 保健師、障がい福祉課との情報交換や啓発。
のべ25名（東部11名・中部6名・西部8名）参加 10月、11月

③啓発活動

- 聴覚障がい基礎研修 5回 校外よりのべ74名参加
内容：難聴理解、自立活動、発音指導、学習支援、当事者の話、補聴器・人工内耳
- 難聴疑似体験および難聴についての研修・学習
対象：難聴の幼児児童生徒の在籍園・在籍校の職員および児童、サービス施設の職員
内容：難聴理解、学習支援、補聴器・人工内耳、デジタルワイヤレス補聴補助システム
- 学校公開＜5月3日間 68名来校 10月2日間 21名来校＞
内容：学校説明、保育・授業公開、研修会（きこえについて）、難聴疑似体験、手話学習会
- 「わくわく交流会」西部地域のきこえにくい子ども達・保護者の交流会
＜8月6日実施 小学生6名中学生4名参加＞
- 手話学習会 月に1～2回 計16回
対象：保護者、早朝子ども教室支援員



3 成果と課題

支援部のめざす姿として、“つながる＊ひろがる関係づくり”をテーマとした。安心感のある環境と関係が「つながる」「ひろがる」ことを土台に、ことばを「伝える」意欲を育む取組を目指した。

様々な関係機関との連携を大切に、行事や研修、相談、指導、啓発活動においてニーズに合わせた取組を考え、幅広く参加を呼びかけることで、「つながる」「ひろがる」関係づくりが増えた。教育相談や通級においても、個々の子どもや家庭の事情、年齢や発達が様々であることを考慮し個別対応という良さを活かして、一人一人に寄り添うことができた。「つながる」「ひろがる」ことも意識した連携を行うことで、達成感や充実感、安心感、そしてことばの力を高めることができた。

今後も継続してほっとできる環境や信頼関係を大切にしながら、関係をつなげてひろげていくためのきっかけづくりと、それによりことばを育んでいくことができるよう、より一層の活動の充実を図っていきたい。

あとがき

1年間の教育活動のまとめとして『龍文』ができあがりました。

本年度の鳥取聾学校は「本校・分校の魅力発信」「教員の専門性の維持」「センター的機能の推進」を使命として取組を進めました。その日々の教育活動を記録し、振り返ると同時に、言語化してまとめる作業を行い、個々の教職員の教育実践に対する思考を深め、教育活動を改善し、個々の深まりと集団への広がりをもつことを目的としています。そして、鳥取聾の魅力を広め、一人でも多くのきこえない・きこえにくい子どもたちの支援につなげていく一助となることができればと考えています。

教職員が「鳥取聾愛・ひまわり愛」の合い言葉の下、一丸となり、お互いの力を引き出し合って「学び合う子」「かなえる子」「やりぬく子」を育てています。本校では、一人1授業を行い、授業改善に取り組んだり、聾学校で継承されてきた指導方法と「鳥取聾スタンダード」を引き継いだ実践を行ったりして指導力向上をめざしました。ひまわり分校は、中国地区ろう教育研究会幼稚部サークル研究会で授業を公開し、他県の先生方や講師の方々から貴重な意見をいただき、実践を重ねました。

また、今年度はひまわり分校が創立30周年の節目の年を迎えました。創立記念式典が盛大に行われ、ひまわり分校キャラクター「ひまりん」が誕生し、本校にもキャラクター「ろっぴー」が誕生しました。全校の幼児児童生徒が思いを込めて案を考えて応募したあと、投票により決定しました。さらに、PTAからのぼりの寄贈もある等、新しい歩みを少しずつ進めています。

歩みを進める鳥取聾学校をさらに進化させていくことができるよう、『龍文』を皆様に読んでいただき、御意見や御指導をいただけると幸いです。

鳥取聾学校 教頭 山根 潤